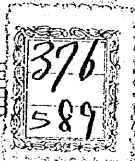
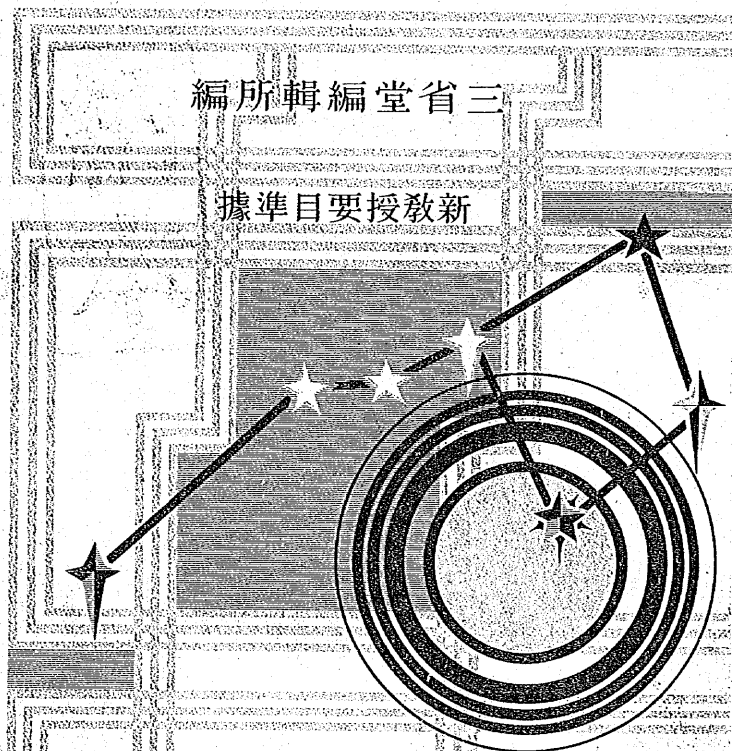


女子
最近地理概說



三堂編輯所編

新教授要目準據



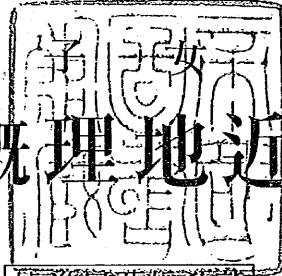
東京三省堂大坂

K230.26

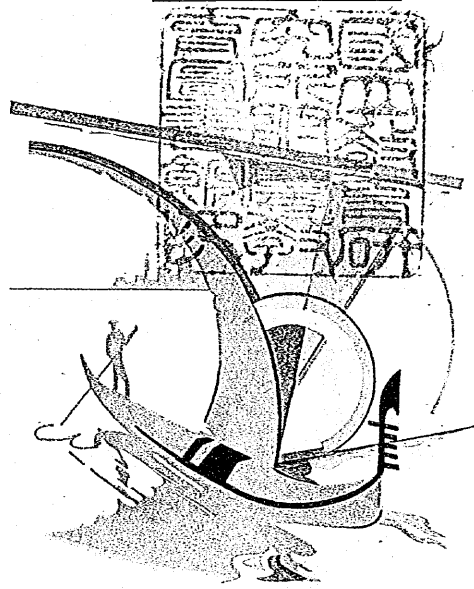
35

三省堂編輯所編

最新地理概說



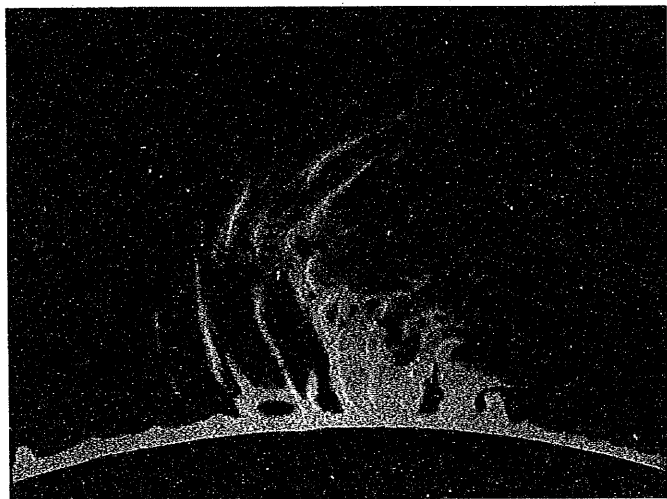
新設授要目準據



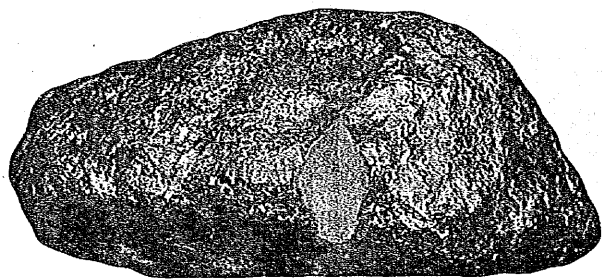
大 堂 版



東京



太陽の火峰



鐵 隕

太陽の火峰 太陽には普通に光つた部分光圏とその周りに地球の空気が常なる部分彩圏がある。この彩圏の周囲からは常に噴煙状のものが放出されてゐる。之を火峰又は噴氣峰と呼ぶ。大いさは一定してゐないが時に四十五萬軒餘の高さに噴騰することがある。圖はそれを日食皆既の時に見た光景。

隕鐵 我が國に落下した隕石の数は少くないが隕鐵は甚だ稀である。圖は滋賀縣栗太郡下田ノ上村で發見落下半年不詳したもので、帝室博物館の所蔵に係り、左右の長さ五十種餘前後の長さ四十種重量約百七十斤に及び本邦で發見された隕鐵の中最大なものである。中央の一部が銀光となつてゐるのは内部が鐵であることを示す爲に切口を附けたものである。

附記 本邦發見の隕鐵で著名なものが三箇ある。一は明治二十七年丹波に墜落し、現に京都帝國大學で保管中のもの。一は越中で發見落下半年不詳し、その一部は皆て榎本子爵が流星刀に作られ、殘餘は帝室博物館に所蔵されてゐる。而して、一は即ち本圖に掲げたものである。

辯言

本書は、女子中等學校の教科書とする爲に、新に公布された教授要目に則り編纂したもので、^{女子}最近日本地理及び^{女子}最近世界地理と連絡し、相待つて地理教授の本旨を達成することに勉めた。

本書の編纂に當り、特に意を用ひた要點は、左の通りである。

一、地理概説は、教授の範圍が甚だ廣く、教授時數は割合に少いから、自然と人事との輕重を斟酌して、教材の選擇に考慮を加へ、過大の弊に陥らないやうにした。

一、他學科と説明の重複を考慮して、教材を取捨し、教授時間を最も有効に利用し得るやうに勉めた。

一、實例にはなるべく本邦のものを採り、我々との關係が、さのみ密接でない事例は、大いに省略した。

一、地理教授の中でも、殊に概説は、文字で讀ましめるよりも、寫眞圖表で示す方が、理解し易い場合が多いから、著しく挿圖畫の數を豊富にし、且一々に略説を附して記事

の理解と趣味の喚起とを助けた。

一尺度は特殊のものを除く外、總てメートル法を原則とした。

教材の排列及び取捨に就ては、教官諸賢の經驗を尊重し、披瀝を得た多數の所見を斟酌して定めたものである。又本書に挿入した日本の氣象圖は、概ね中央氣象臺の調査により、統計圖表は、その當局の調査及び日本國勢圖會國勢グラフ、日本貿易精覽、國際聯盟統計年鑑、世界經濟圖表等に掲げられた數に基いて、作製したものが多い。茲に特記して感謝の意を表する。

昭和十二年九月

編者識

子女最近地理概説

目次

第一章 地球	一
第一節 天體と地球	一
第二節 地球の實體	五
第三節 地球の運動	七
第四節 地圖	二一
第二章 陸地	二四
第一節 陸地の現状	二四
第二節 陸地の變動	二四
第三節 地形	三三
第三章 海洋	三六
第一節 海及び海水	三六

第二節	海水の運動	二六
第四章	氣候	三
第一節	大氣と風	三
第二節	降水及び天氣	三
第五章	住民	六
第一節	自然と人生	六
第二節	住民の狀態	六
第三節	人類の住所	六
第六章	産業	五
第一節	農業	五
第二節	牧畜	五
第三節	林業	五
第四節	水産業	五
第五節	鑛業	六

目次終

第六節	工業	五
第七節	商業	七
第七章	交通	六
第一節	陸運	六
第二節	水運	六
第三節	空運	六
第四節	通信	六
第八章	政治	六
第一節	國家の組織	六
第二節	國家の版圖	六
第三節	主要國の國勢	六
第四節	國際關係	六
第九章	世界に於ける我が國の地位	六

子女
最近地理概説

第一章 地球

第一節 天體と地球

太陽系 晴夜に天空を眺めると、無數の星が、銀砂を散らしたやうに、美しく輝いてゐる。此等の星には、恆星・遊星・衛星等の別がある。太陽

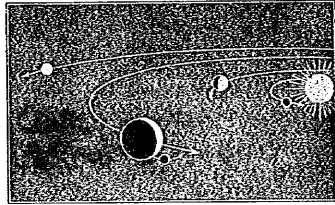


図1 星の運行の図 恆星・遊星・衛星の關係を示す

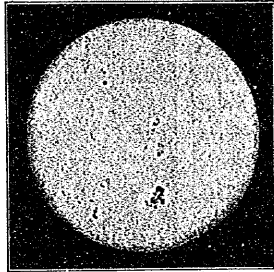


図2 太陽表面の黒点の分布 太陽表面の黒点の分布を示す

面は、強烈な光と熱とを放ち、燦然と輝いてゐるが、處々に黒点と呼ばれる斑点がある。

太陽の周囲には、



天の空の眺

金・月で景光ため眺を空の方西に刻夕の時或るあてい輝くし美が星のく多め始を星木・星

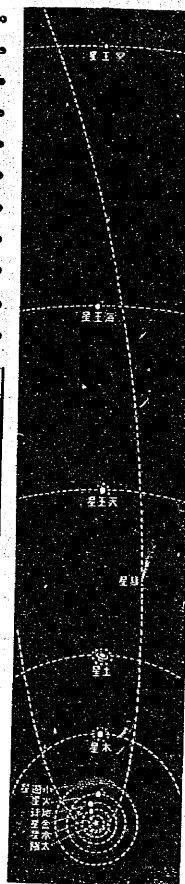


星の雪

は星のこで星雪ーレハたれは現に月五年三十四治明るえ見に目の々我てれは現び再とるぎ過餘年六十

水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星・
星の九大遊星と、一群の小遊星がある。遊星には衛星を伴ふものが多く、月は地球に属する衛星である。此等の星は略、同一の平面内にあつて、常に一定の軌道を運行してゐるが、この他に多くは軌道の定まら

星	太陽との距離比較	地球との距離比較	衛星	要
太陽	0	100		光が地球に到達するのに八分餘を要する
水星	0.4	0.6	0	距離が太陽に近い爲肉眼では見出し難い
金星	0.7	0.9	0	明星と呼ばれ曉方又は夕暮にのみ現れる
地球	1.0	1.0	1	太陽との平均距離は約一億五千萬軒ある
火星	1.5	2.5	2	海陸の別があつて地球と状態が似てゐる
木星	5.2	9.5	9	遊星中で最も大きく最も鮮明である
土星	9.5	19.2	20	輪體があつて星を繞り金の鈴に似てゐる
天王星	19.2	37.4	4	距離が遠く肉眼で見えることは稀である
海王星	30.1	60.1	1	一八四六年ドイツで發見された星である
冥王星	40.0	80.0	?	一九三〇年米國で發見された新星である
小遊星				一千に餘る星で火星と木星との間にある
彗星				多くは光る尾を曳き俗に彗星といはれる
流星				地球に落下する時空氣と摩擦し光を出す



星のす属に系陽太陽西

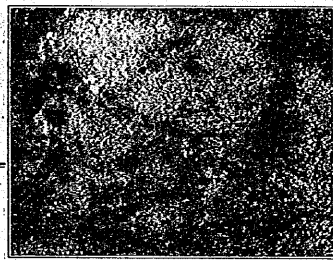
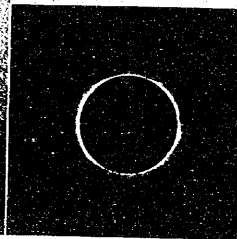
月から見た地球
地球から月を見たのと同じく輝いてゐるが大きさは約四倍に達し且天空は常に暗黒で星が現はれてゐる



日食
日食の時に映した天空の寫眞で附圖は日食皆既の時の太陽を示したものである



オリオン大星雲
俗に三ツ星と呼ばれる星（殆ど同大の星が三ツ直線に並ぶ）の邊をオリオン座といひ大星雲は此處にあつて無月の時は肉眼でも淡く見える



銀河の一部の図と見るにうやの星の群が川の天の川で望遠鏡のみる

ない若干の彗星流星がある。此等の星の一群を總稱して太陽系と呼ぶ。

天空には、無數に太陽系の如き星群がある。我等の眼に映る星は數箇を除く外殆ど悉く恆星で、中には太陽よりも一層大きなものもあるが距離が非常に遠いから僅に一點の光として認めるに過ぎない。秋夜の天空に、一帯の雲の如く見える銀河も、同じ方向に多くの恆星が群つたものであるといふ。かくの如く、無數の星を包容せる、廣大無邊の空間を宇宙といふ。

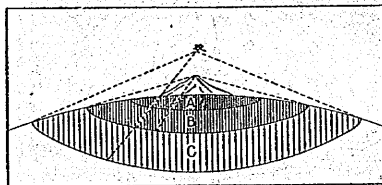
太陽系の成因 太陽系の初は現に宇宙にある星雲のやうなものであつたが、廻轉の爲に赤道部が膨れて、數多の環となり、その環は、凝集して一群の天體となり、中央の大塊は太陽となつたと説く學者もある。之を星雲説といふ。併し反對の新説もあつて、その成因は、尙未解の謎である。

月とその運動 月の直徑は、地球の四分の一よりも稍、小さい。二十七日餘で地球の周圍を一周し、又同時間に一自轉をするから、常に同一の半面を地球に向けてゐる。月の表面には、大小無

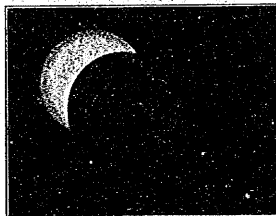
星雲説はカント・ラプラス兩氏の唱へた説である
月の一公轉は二十七日七時四十三分餘であるが地球もその間に運行して位置を變へるから新月から新月までには二十九日十二時四十四分餘を要する前者を恆星月後者を朔望月といふ



銀河の一例として渦巻星雲の一種を寫し、中心部に明るい星が散在してゐることを注意せよ

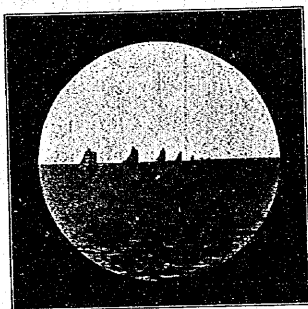


のい見えは外のAは地平 遠相の界限視^① ばれ昇で機行飛く高に更見えがBばれ登に上山に なく廣は界限視程い高の置位にうや見えがC



影の球地たつ映に面月際^②の食月^③

位置によつて、日出・日没の時間が異なること
や、位置の高低によつて眼界の廣狹が違
ふことや、月食の時に映る地球の影が、圓
又は圓の一部である等により、推考し得ら
れるが、精密な試験によると、地球は正しい



橋に僅は船の方遠 船た見らか岸海^④ 見えが體全は船い見えが分部一の頭

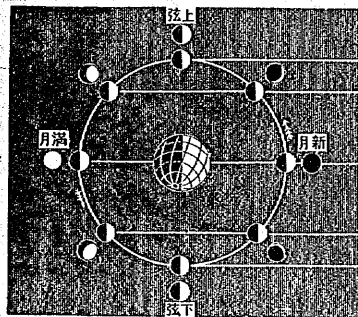
地球の形状 地球が球状であること

第二節 地球の實體

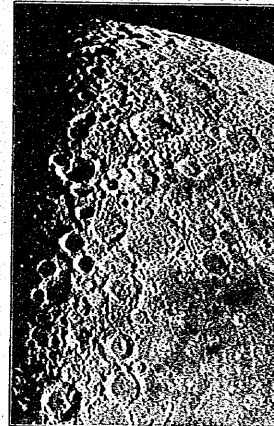
が地球の影に入り、又地球が月の影に入ることがある。前の場合を月食といひ、後の場合を日食といふ。食はその状態によつて、皆既食^⑤、部分食^⑥等の名がある。

地球の大きさ
赤道直徑
一二七五七杆
兩極直徑
一二七一四杆
赤道周長
四〇〇七七杆
總面積
五億千萬方杆

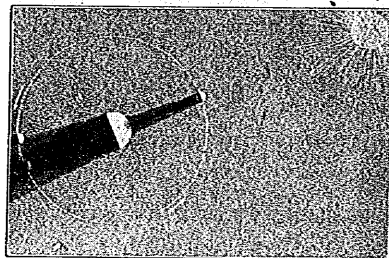
月と地球との距離
が遠い場合に皆既
日食が起ると月は
太陽の真中に挟ま
つて周囲に環狀の
光が見える之を金
環食といふ



れさ照に陽太を面半のそに常は月 虚盈の月^⑦ 變が形の面光てつよに置位する對に球地がるみて るあで面光の月ため眺らか球地は個外の圖挿 有



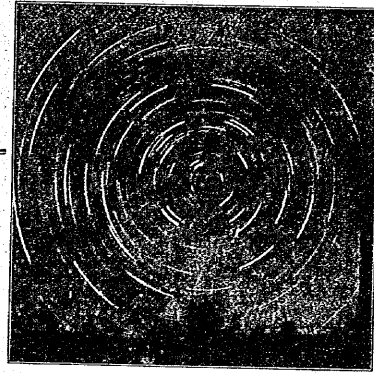
脈山はに面表の月 部一の面月^⑧ 又りあも地坦平るれば呼と海ありあ して在置に數無がのもしら口火噴 はのるれはいと孤餅の兎に俗 有るあで影陰たじ生に爲の伏起の等其



る起が食月や食日りに置位の球地は又月^⑨

月の位置によつて、三日月ともなり、満月ともな
つて、光面の形が變り、見る人に種々の感じを懷
かせる。昔から之を世の榮枯盛衰に比べ、月を詠
した詩歌が甚だ多い。
日月食 月は地球を廻りながら、更に地球と
共に、太陽の周囲を廻つてゐるから、時として月

面の太陽に照されて、明るく輝
いてゐる。之を地球から見ると、
數の噴火口
のやうなも
のがある。今
は空氣も水
もない暗體
であるが、半

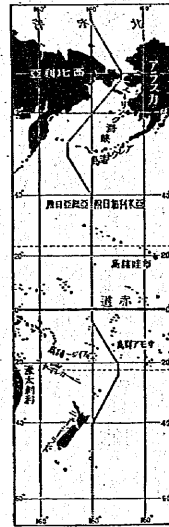


極北を機眞寫間時數 空の極北たし映に眞寫(註) む進てい描を圓く如の圖は星とく置てけ向に空の

自轉と公轉 地球は地軸を軸として、二十四時間、西から東に向つて自轉をなし、又一年間に太陽の周圍を一公轉する。日月が東から出て西に没し、地球上に晝夜の別を起すのも、北天の星が、北極星を中心として廻るやうに見えるのも、總てこの自轉から起る現象である。

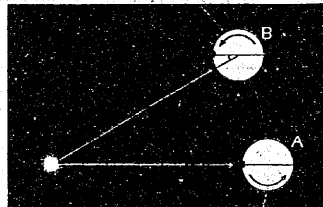
標準時 地球は自轉の爲に、先づ東から太陽に照らされ、次第に西に移るから、經度が違へば地方時と同じでない。文明國では、この不便を避ける爲に、或地方時を採つて、一定の區域内に於ける標準時とする。我が國では、東經百三十五度(附石)の地方時を標準時と定めてゐる。

日附變更線 地方時は、西に進むにつれて遅れるから、西に向ふ旅行者は、經度十五度を進む毎に時計を一時間遅らせる必要がある。斯くて三百六十度(地球)をを進めば、二十四時間遅らせたことになるから、日



體大 線更變附日(註) 基に線經の度十八百は がるみてつなにとく 上宜便で等係關の土領 るおも處ためしせ曲屈

數が一日少くなり、反對に東に向つて地球を一周すると、日數が一日多くなる。この不便を除く爲に、太平洋中に日附變更線を設け、この線を東に越せば、同じ日附を繰返し、西に越せば、一日を除いて數へることにしてゐる。



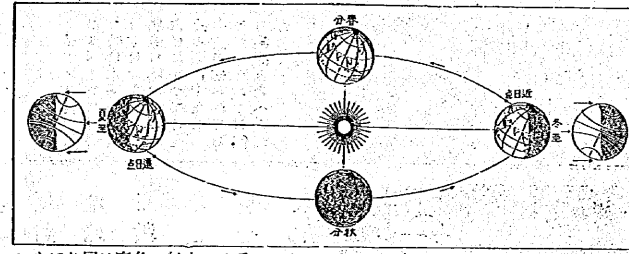
A、つし轉自が球地 日陽太と日星恆(註) 分幾向に上たし轉自一とるす轉公にBらかいなし中南に點の元は陽太ばれけなら廻か

平均太陽日 地球は自轉の外に、公轉して位置を變へるから、或地點に太陽が南中してから、次に南中するまでの時間は、一自轉に要する時間よりも、稍長くなる。地球が一自轉する時間を、恆星日(註)の一日といひ、太陽の南中から、次に南中するまでの時間を、太陽日(註)の一日といふ。地球の公轉速度は、軌道上の位置によつて違ふから、太陽

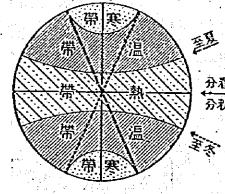
南洋群島には別に三つの南洋標準時がある

マゼランの遠征隊がスペインに歸つた時は本國では九月七日であつたが航海日誌には九月六日になつてゐた。その頃は未だこの事實が知られてゐなかつたので日誌の誤記と考へられ

一年間に正しく二十四時間の日は數日あるだけで他は夫よりも或は長く或は短い



四季の起る理に節季より太陽の高さや之を受けける射角の度にてい



地球の表面に於ける五帯

日の長さは、常に一定してゐない。之を平均したものを平均太陽日といひ、即ち二十四時間である。

四季の變化 地軸は軌道の面に對して、凡そ六十六度半の角度を保つてゐるから、公轉して位置が移るに従ひ、太陽から受ける光線の方向が違つて来る。春分(三月二十一日頃)には、太陽が赤道を直射して、正東から出て正西に入り、晝夜は各地平分であるが、北半球では、それから次第に晝が長く、夜が短くなり、夏至(六月二十一日頃)になると、太陽は北回歸線上を直射し、北極圏内では、全く太陽の没する時がない。之から太陽は次第に南に移り、秋分(九月二十三日頃)になると、再び赤道を直射して、晝夜は平分となるが、その後北半球では、晝が短くなり、夜が長くなり、冬至(十二月二十一日頃)には、太陽は南回歸線上を直射し、北極圏内では、全く太陽を見る時がない。斯く地球は、季節と緯度

一般に用ひられる上層の語

春分	太陽が赤道を直射し各地の晝夜平分(三月二十一日頃)
秋分	同(九月二十三日頃)
夏至	北半球では晝が最も長く、夜が最も短い(六月二十一日頃)
冬至	北半球では晝が最も短く、夜が最も長い(十二月二十一日頃)
立春	冬至と春分との間(二月五日頃)
立夏	春分と夏至との間(五月七日頃)
立秋	夏至と秋分との間(八月九日頃)
立冬	秋分と冬至との間(十一月八日頃)
節分	立春の前日
彼岸	春分・秋分を中心とした前後の三日宛即ち七日間をいふ
入梅	六月十二日頃で之から凡そ三十日の間は霖雨が多い
土用	四季の後期五分の一(夏季の土用のみを特に汎稱する)
八十八夜	二百十日・二百二十日・何れも立春から數へた日數

とによつて、太陽から受ける光熱の有様を異にし、地表に熱帯・温帯・寒帯の氣候帶を生ずる。

曆 地球の公轉は三百六十五日五時四十八分餘であるが、曆では便宜上端數を省き、三百六十五日を一年として、之を平年とし、又四年毎に、端數から生ずる一日を加へて、三百六十六日の一年を設け、之を閏年と呼ぶ。併し四年間に生ずる端數の合計は、一日に稍足りないのに、之を一日として加へるから、曆は次第に季節よりも遅れることになる。そこで四百年間に、三回だけ閏年を廢して平年とし、曆と季節とを一致せしめる。之が新式太陽曆(グレゴリヤ曆)である。

第四節 地圖

地圖は、地球表面の有様を、平面に縮寫したものであるが、地球の形は、正しく平面に寫すことが出来ないから、使用の目的に應じ、割合に

神武天皇即位紀元年數を四で整除することの出来る年を閏年とする。但紀元年數から六百六十を減じ百で整除し得るものの中更に四でその商を整除することの出来る年は平年である。

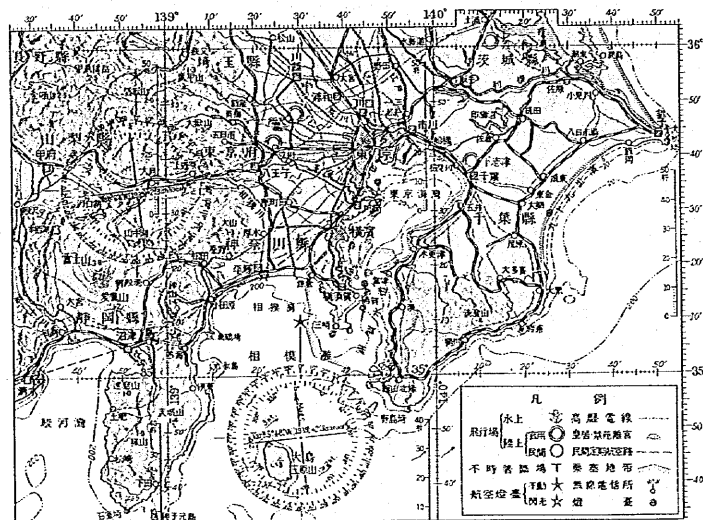


圖 空 航

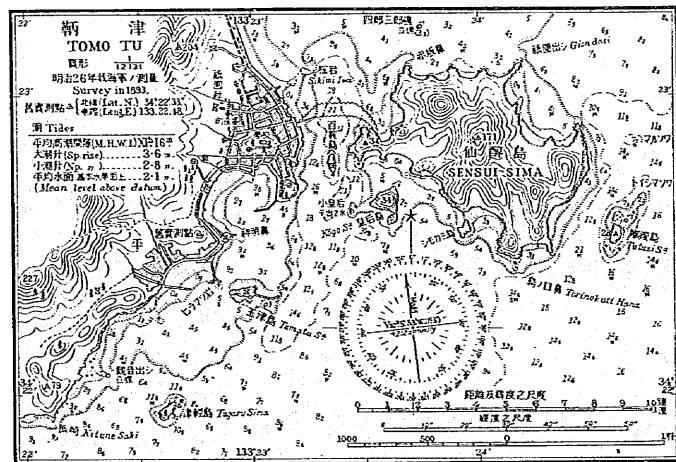
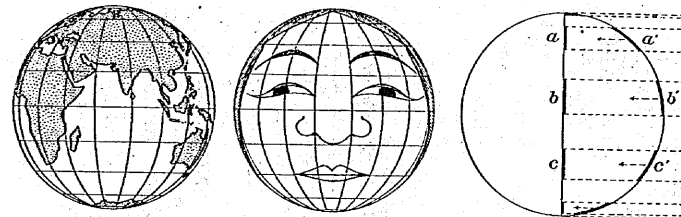
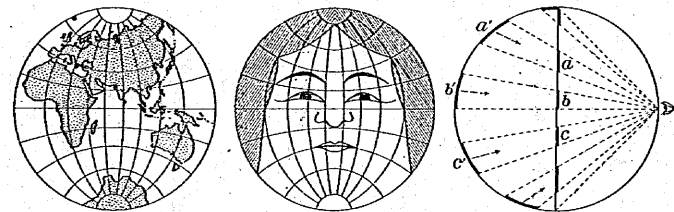


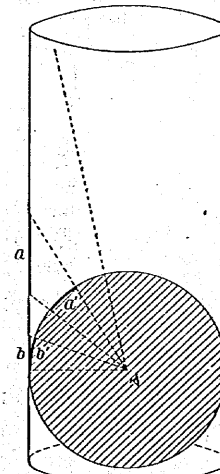
圖 海



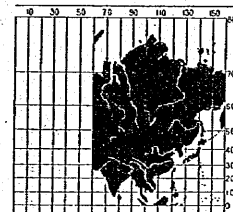
るなく狭は積面の部邊緣がいに眞は部心中で様同とのたし映を球地に鏡 法圖射直器圖



るなく狭は積面の心中でのたし寫透を側裏て立を板子硝に心中の儀球地 法圖射平儀圖

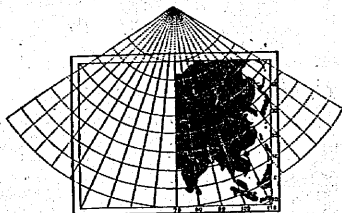
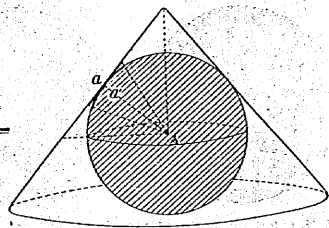


眞に近いもので満足せねばならぬ。
地球を無限の遠方から見て、前側の半
球を寫したものを直・射・圖・法・といひ、地表
の一點から見て、裏側の半球を寫したも
のを平・射・圖・法・といふ。共に中心と縁邊
と、面積の著しく違ふ缺點がある。
地球を圓柱狀に



し等もで處何は隔間との線緯と線經 法圖ルートカルメ器圖
るなく長に第次てつ從にくづ近に極は隔間との線緯と線緯く

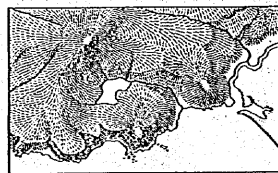
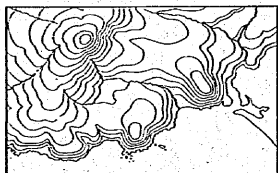
地圖には一般に經緯線・縮尺及び方位等を記入する



部るゐてれ觸に球地が面紙 法圖錐圓錐圖
距らか之がるれら得を形地いし正る顔は分
輪の當適らかるなくし著が違相てつ從にる
るあでのもる採をけだ分部の要所へ加を郭

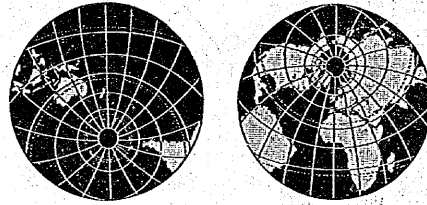
包んで、投影したものを圓柱圖法といひ、その一種のメルカトル圖法は、方向が正しいから、海圖は主として之を用ひる。地球を圓錐狀に包んで、投影したものを圓錐圖法といひ、一部分を比較的正しく現すに適し、地方圖は多くこの方法による。

地圖は等高線(曲線)又はケバ(筆道)によつて、土地の高低や傾斜の緩急等を現すのが普通である。地圖には、専ら陸地の形狀を現す地形圖や、主として海中の狀態を示す海圖があり、又航空上に大切な事項を記入した航空圖も製作された。



示表るよにバケび及線高等と形地

歐洲が陸半球の中心にあることは現在の隆盛を致した一因である



水半球と陸半球 陸半球と水半球 陸半球と水半球 陸半球と水半球

第二章 陸地

第一節 陸地の現状

水陸分布 地球の表面は陸と水とに分れ、その割合は、約一と二七であるが、陸の大部分は北半球にあるから、その分け方により、陸地の大部分を含む陸半球と、全面殆ど水に被はれた水半球となる。

大陸と島 大陸と比べて、面積の著しく小さいのを島といひ、その成因によつて、陸島と洋島とに分ける。陸島は、嘗て大陸の一部であつた土地が、陥没又は侵蝕等の爲に分離したもので、日本イギリス等は之に屬し、洋島は、大陸と直接の關係がなく成立つてゐるもので、火山島や珊瑚島が之に屬する。

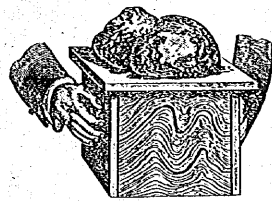
第二節 陸地の變動

地表の狀態は、一見殆ど變化はないやうであるが、實際は絶

えず變動して、少しも止む時がない。この營力は、地球の内部から及ぼす地熱の作用と外部から加はる大氣・水・生物等の作用である。

一 内力

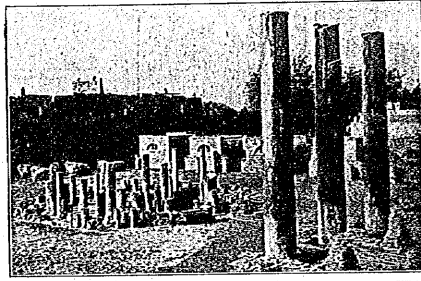
山脈の成生 地球は冷却につれて、次第に容積



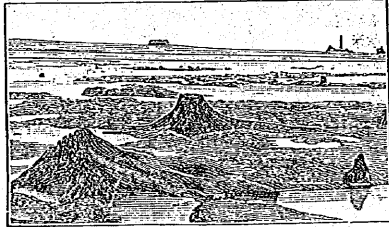
型模たし示を用作山造に的工人模

を縮めるが、表面は固體の地殻となつてゐるから、横に壓合つて、褶曲を生ずる。之を造山作用といひ、世界の大山脈は、多くの結果として出來たものである。

土地の昇降 地盤の變化は、今も絶えず行はれてゐるから、海岸の隆起する處や、又反對に沈降する處がある。嘗て海水の侵蝕を受けた痕跡

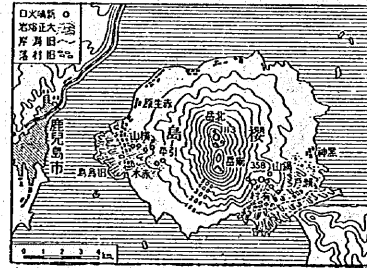


海後築建 址遺の堂スピラセるかに岸海のヤリタイ 隆起の痕跡の貝孔穿に部下の柱でのたし起隆又み沈に



ム處でのもるかに海近のドンラグンイ 林森の底海 隆起の痕跡の貝孔穿に部下の柱でのたし起隆又み沈に

活火山（現在活
動）
休火山（有史後
に活動した山）
死火山（有史後
に活動しな
い山）
箱根山・鳥海山

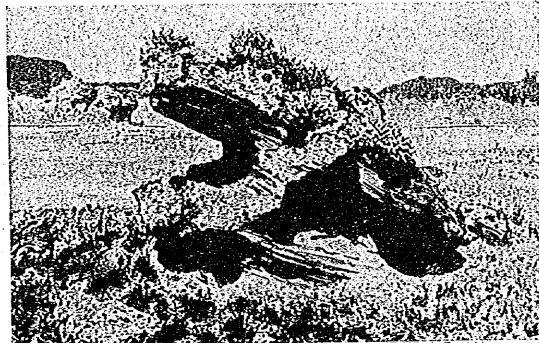


時たし出噴の島櫻年三正大 流岩熔の岳島櫻櫻
のもたれ流に方東れ流に方二の西東が流岩熔大は
島櫻ため埋を峽海の米〇五五幅・餘米〇五深水は
圖地たし示をと流岩熔と形岩は圖たけ額と陸本を

が、現在の汀線よりも上に見えたり、海棲物の遺骸が、内地に発見されるのは、土地が隆起した證據で、陸上にあつた建物や森林の跡が、海底に残つてゐたり、淺海に棲む珊瑚礁の遺骸が、深い海底にある等は、土地の降下した證據である。

火山作用 地球の内部から、地殻の弱い部分を通じて、熔岩や水蒸気等を噴出することがある、之を火山作用といひ、その噴出物は、火山や熔岩臺地を作る。

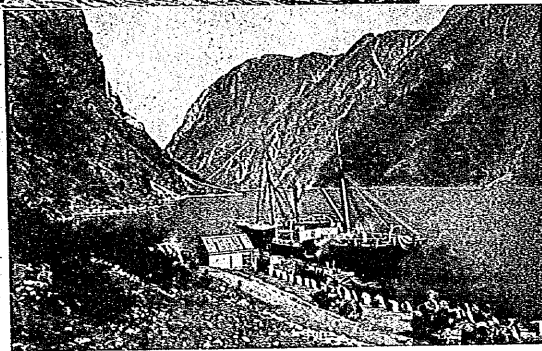
火山活動の直接原因は、主として地下の熱水が、水蒸気に化する張力によるもので、多く地鳴りや地震に次いで、激しい爆音と共に地盤を崩し、水蒸気は岩石の破片と混じて、黒煙のやうに見え、迸出した熔岩が之に映つて、恰も火焰を噴出するが如く、凄じい光景を呈することがある。又地下に鬱積した水蒸気の張力が、非常に激しい時は、急に山體を破壊して、發散することがある。



隆起珊瑚礁
海中に出来た珊瑚礁が水面を離れた高い處に附着し土地の隆起したことを示す（硫黄島）



江ノ島
島の周囲には海堤が發達し海水の侵蝕による洞穴が水面上にあるなど土地の上昇を示してある



峽灣
嘗て、氷河の爲に發たれた深谷が土地の下降により其處に海水を満たして峽灣を造る（ノルウェー）



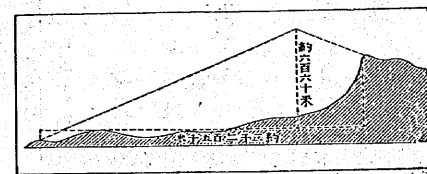
山火狀層の的式標ひ伴を野裾い廣に麓で急が斜傾は部上しなを體維圓が體山 山士富



のもし示を山火狀塊は山火狀層は面斷像想の山火

之を火山破裂といふ。火山はその状態により、活火山・休眠火山・死火山等と呼ばれるが、その現状をいふに過ぎないから、休眠火山・死火山でも、俄に活火山となることがある。

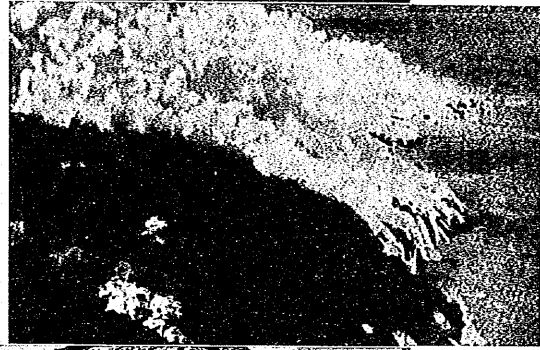
火山噴出物の主なものは熔岩で、その分離飛散したものに、火山弾・火山礫・火山灰・火山砂・火山毛等がある。



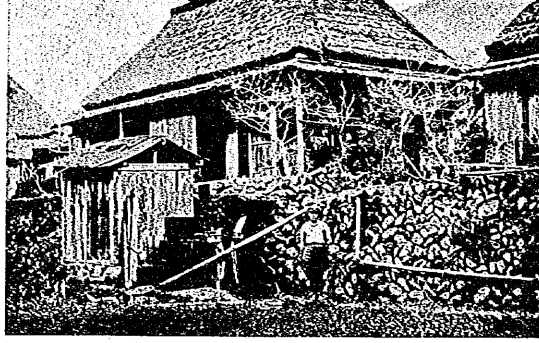
山に俄は山梯磐小る餘に米百六拔海 裂破の山梯磐 なるめてつ残てつなに形蹄馬が跡のそし散飛を分部大の體



阿蘇山
火口丘が五つある。之を阿蘇五岳といひその中の山岳は今も噴煙してゐる。

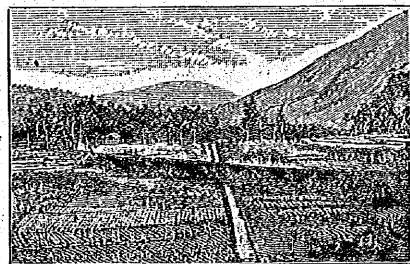


櫻島の熔岩流
大正三年噴火の際東西の南方に熔岩を流出した。圖はその熔岩が海中へ流入する光景。

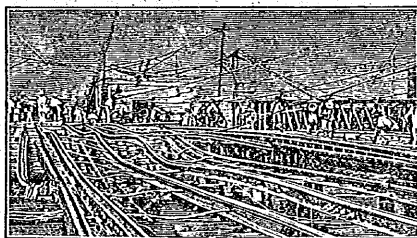


根尾谷斷層の現状
石垣を施したのは地震當時の斷層崖で傍の小屋は斷層崖から流出する泉流を利用した水車小屋である。

軟弱な地盤や空地の縁端等は地震が割合に烈しい大地震の後は多くの小震を續發する之を餘震といふ関東地震の後東京では一年間に三千二百四十回の餘震があつた地震計は地盤の動

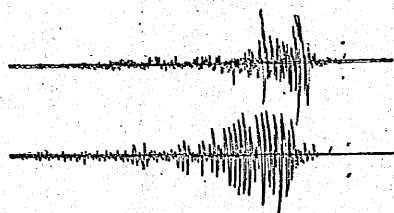


層斷大た米田に谷尾根の縣卓岐際地震尾浪 層斷圖も最は軒一約の近附谷尾根に殊び及に軒十六約が長延はたし動移を弱米三にも平水・米六がひ違喰の直垂くし其



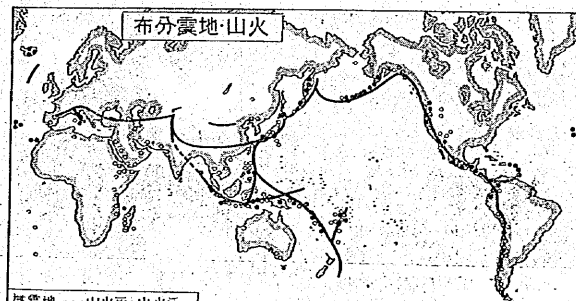
たし此屈が道軌道鐵をけ於に京東 害惨の震地東關圖炎火るあゝつめなを市全はるあてしと々腔に方前で様有

震央は震動が最も烈しく、水平動と上下動とを感ずるが、遠ざかるにつれて、上下動は次第に微弱となり、終には水平動のみを感ずるやうになる。併しその強さは、地形や地質等によつても大いに違ふものである。



し壊破く悉は計震地たつかに京東 録記の震地東關圖殿山向の震仙は圖のこ たつかなら得を録記な全完て倍五・三約の圖のこは動實で動震たじ感に計震地の所象

噴火口に水を湛へたものを火口湖といふ



布分震地・火山

地く多が動變に震地は處る連の脈山大に殊邊縁の陸大、布分震地及び火山火口、すなを(脈火山)帯火山でん列に狀帯ね概し出噴に處此く多は山火らかい弱が盤大は岸沿の洋平太、るす致一と山火と殆は布分のそく多に處い弱の盤地も震地るあで國震地又で國山火の指風界世り當に部一のそは國が我で處る走の脈山火

を遠近に傳へるのを地震といふ。地震には、火山の活動に伴ふ火山地震、地下の空洞が陥落した爲に起る陥落地震等もあるが、地殻の斷層

の性質により、療養上に特效がある。火山は活動を休止した後でも、尚種々の瓦斯體を噴出することがある、之を噴氣孔といふ。温泉も火山地方に多く、種々の鑛物を溶解含有してゐるからその性質により、療養上に特效がある。

複火山にある中央の新火山を火口丘・周囲の舊火山壁を外輪山といひ、火口丘と外輪山との間にある低地を火口原といふ。火口原に水を湛へれば火口湖となり、火口原の水が外輪山を破つて流出する處を火口湖といふ。



揺を感じない點を
設け此處に針を附
けて地盤と共に動
く板土に記録せし
めるのである
崩壊作用は寒冷乾
燥の處に盛で分解
作用は高温多湿の
地方に著しい



に邊海の宮新郡屋精縣岡福 居鳥たれらめ埋に丘砂
景光るゐてれらめ埋に爲の丘砂が居鳥石の社神前磯い近

地震は輕微な初期微動に始つて主要動に移り、次第に微弱な終期動に終るものである。地震の強弱を計るには地震計を用ふる。

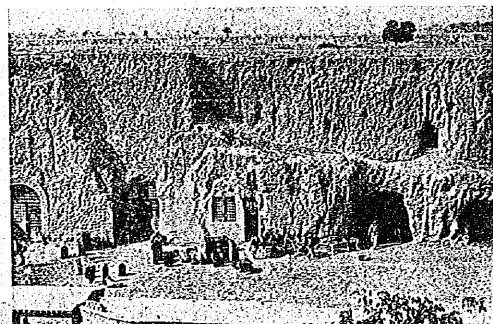
二 外 力

大氣の作用 大氣は溫度の變化によつて岩石の組織を弛めると共に、化學的にも之を侵し、雨水を伴へば、その分解が一層著しい、之を

風・化・作用といふ。その他大氣は風によつて砂を飛ばし、之を他の地方へ運搬堆積する。北支那の黄土層や、海岸沙漠等にある砂丘は、この作用で出来たものである。

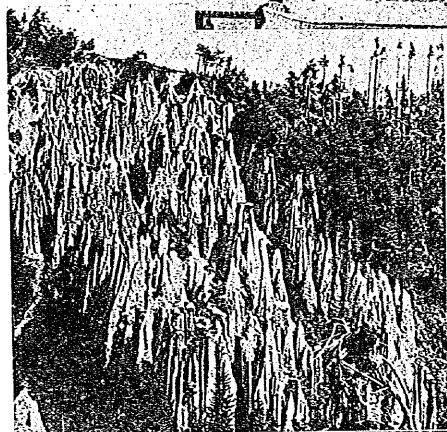
水の作用 水は雨となつて地盤を打ち、之を崩すから岩石の硬軟によつて、種々の奇景を作り、又地下に浸入した水は、種々の物質を溶解して、地下に空洞を造ることもある。石灰洞はその結果で、洞内には鍾乳石、石筍等を生じ、暗黒の地下に、美觀を造ることがある。

河水は絶えず、流路に當る土地を削り、又岩片、砂泥等を

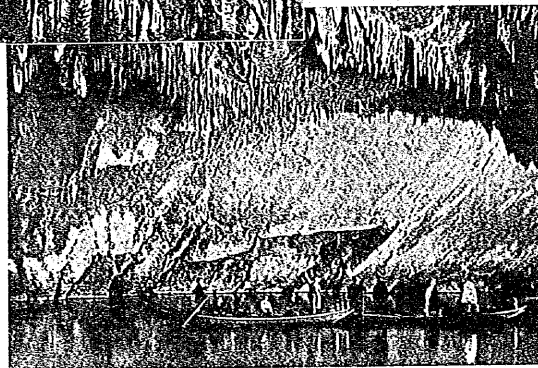


北支那の黄土

黄土層の厚さは處により三十米にも達し、その侵蝕された崖側に穴を穿つて穴居生活を営む者もある。



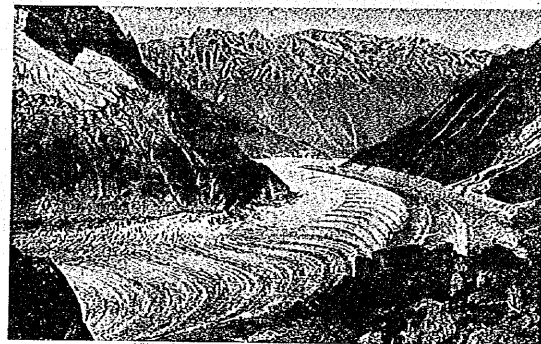
土柱の群立
岩塊の下部だけが雨水の侵蝕を免れて圓の如き土柱を造る（オーストリアのチロール）



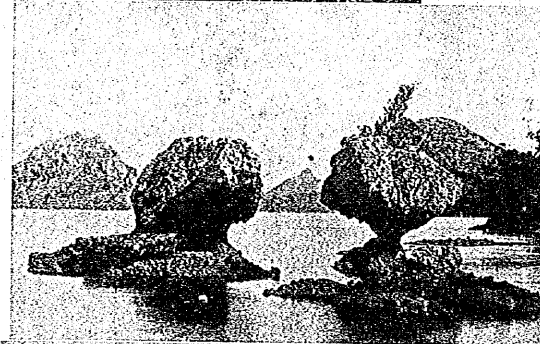
石灰洞の内部

洞内には鐘乳石、石筍、石柱等が出来て美觀を呈し、時には地下水、地下河等の出来ることもある。

氷河
徐々に山谷を流下しその移動に當り絶大な力で著しく地盤を削磨する（スイス）



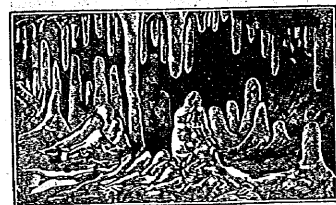
海蝕作用
浪に洗はれる部分は著しく崩壊されて図のやうな奇景を造る（ニュージーランド）



珊瑚礁
各種の珊瑚礁によつて造られた礁で色も形も頗る美しい（澎湖大陸東岸の堡礁）



運ぶ降雨の後に河水が濁るのは侵蝕物を運搬する爲で、洪水の後に砂の殘留するのは、それを堆積した結果である。此等の作用は、水量や速度の關係で著しく違ふから、河の上流では、運搬作用が盛に行はれ、殊に大雨の際には、巨大な岩石を運んで、侵蝕作用を助けるから、往々削つたやうな峽谷を造り、時には瀑壁を崩して、瀑布を後退させることもある。



石乳や石筍が群立する 洞内の石灰洞部

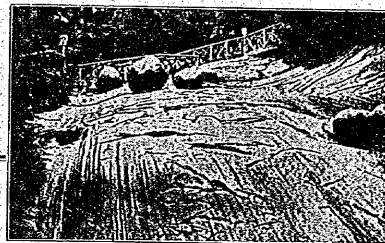


和歌山縣の北山川に著名な遊丁の峡谷

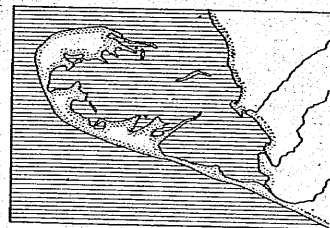


位置を退するの図はナガイ瀑布は年々位置を退するの断面図

下流になると、侵蝕運搬の兩作用は衰へて、専ら堆積作用のみが行はれる。河口に發達する三角洲は、その運搬物の堆積したものである。
海水は、波を起して絶えず海岸を崩すと共に、その砂礫を他に運



スイスたるては被に河水で會、痕擦の河水石の圓で痕擦河水るゐてつ殘に方地ンルツルの塊石たれら削の角稜に爲の動移りま拔に底河水は

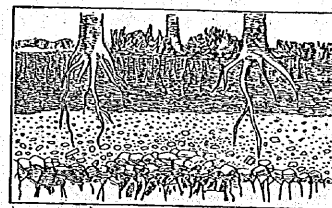


崎付野の道海北たし達發に狀鈎 噴砂

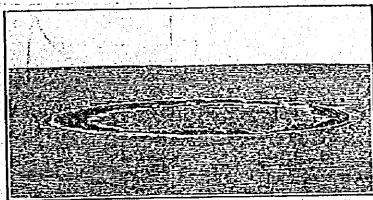
搬して砂嘴を造り、時に海水の一部を堰き止めて、渦を造ることがある。氷も岩石を崩す働きをするが、その最も著しいのは氷河である。氷河は、その中に挟まる岩石と共に、地盤を削つてU字形の深谷を造ることがあり、氷河の融けた處には、多量の石塊を捨て、

水は氷結の際著しく容積を増すから土壌又は岩石の裂隙に浸入した水は氷結の際恰も楔で物を刺るやうに之を崩壊する。氷結の遺骸は珪藻土となる

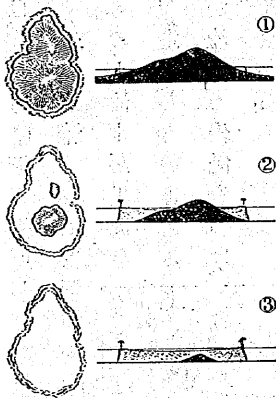
がある。歐洲北米等には、この例が多い。生物の作用 生物の地盤に及ぼす力も頗る大きく、植物は根の成長によつて、岩石を崩す等の働きもするが、殊に顯著なのは、太古の植物が、石炭泥炭等となつて、地盤の一部をなすことで、下等動物にも、大きな結果を残すものがある。



物機有に最多は層上 用作の根の物植 多に合割が物合混は層中 塊土るゐてじ混をるゐで石岩な質堅は層下 壤土強いなく



例一の礁環珊瑚あるに中の島群洋南 礁珊瑚



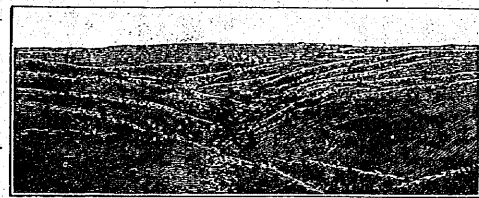
に狀形は礁珊瑚 類種の礁珊瑚 如の①のりけ分に種三てつよ 如の②のいといと礁環をのゐてし着附をのむ圍を地陸でん換を水の帯一く海でしなを狀環く如の③のいといと礁堡別の等此 ふいと礁環をのむ圍を水の地土たゐてつ作を礁環はる來出のれはいとるゐて爲たし降下に第次

珊瑚蟲は、温暖な浅海に繁殖し、炭酸石灰を分泌して、廣大な珊瑚礁を造る。我が南洋諸島の多くは、之に屬する。

多孔蟲は海中に棲む微細な動物で、その遺骸は、廣く海底を被ひ、石灰質の軟泥を造つてゐる。現に各地から採掘される石灰岩の大部分は、この軟泥が、古く凝結し、海面上に隆起したものである。

第三節 地形

地形の輪廻 地表の形狀は、甚だ錯雜してゐるが、その原形を造るのは内力の作用で、之に種々の外力が加はつて、今日のやうになつたのである。地形の變化は、不規則のやうであるが、その間に一定の順序



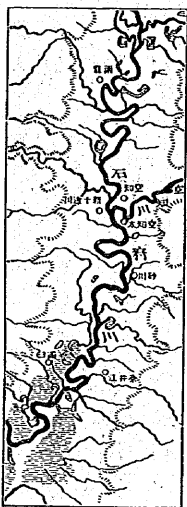
形地の期年幼図
るあて調平に體全が貌地で慢緩てし概が伏起



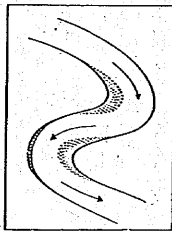
面断たし示略を遷變 廻輪の蝕侵図

がある。その状態を幼年期・壯年期・老年期に分ける。幼年期の土地は、起伏が單調で、谷の幅も狭く、原形が多く残つてゐるが、壯年期に入ると、山は高く峻しく、谷も廣くなつて、地貌が極めて複雑となる。更に老年期に入ると、峻峯は次第に削られ、谷は益、擴つて起伏が緩漫となり、外見は平野と區別がないやうになる。之を準・平・原といひ、この變化の系統を地形の輪廻といふ。今日我々の見る地形は、幾回も輪廻を繰返して來た結果である。

谷と河流 谷には褶曲や斷層によつて出



が道河 部一の川狩石図
い多が湖跡河に岸雨し曲屈



來たものと、流水が土地を削つて造つたものとある。其等が流水の侵蝕を受け、益、形を變へる。

流水は抵抗の少い處を進むから、屈曲するのが普通である。併し屈曲せる河道では、兩岸の流速が違ふ爲に、一方の岸は侵蝕されるが、一方は反對に堆積が行はれて、河道は益、屈曲を増し、終には屈曲部と屈曲部とが續いて、新しい河道を開き、舊河道は三日月形の湖水となつて残ることがある。石狩川の沿岸にはこの例が多い。

山と平野 山は地層の褶曲によるものが最も多く、その他斷層や侵蝕等の爲に出來た山もあり、又火山作用による山もある。

斷層山岳には褶曲
地塊・地盤等がある
堆積山岳中には稀
に風塵の堆積から
生じた小山がある

褶曲山岳

ヒマラヤ・アルプを始め世界の
大山脈は概ねこの例である

斷層山岳

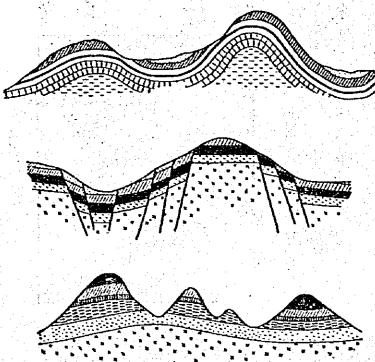
ライン河沿岸の山脈及び我が金
剛・鈴鹿等の山脈は之に屬する

侵蝕山岳

褶曲山脈・臺地又は火山等の變
形によるものが多い

堆積山岳(火山)

富士山・阿蘇山等はこの種に屬
する



に層断は④りよに曲結は② 面断の岳山図
面断の脈山た來出りよに蝕侵の水流は①りよ

- 湖水の成因
- 1 窪地湖
 - 2 沈降湖
 - 3 海跡湖
 - 4 石狩川附近の小湖
 - 5 ジェネーブ湖
 - 6 蔵王沼
 - 7 火口湖
 - 8 中禪寺湖
 - 9 北畠湖
 - 10 北畠湖
 - 11 環礁湖
 - 12 南洋に多い

地中海の如く深く
陸地内に入り込む
ものを内海といひ
日本海の如く大陸
縁の列島によつて
境せられるもの
を接海といふ

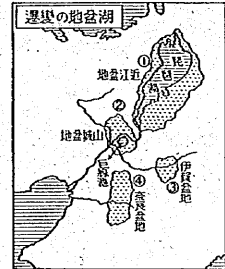
ひ、周囲に高地を繞らした平地を盆地といふ。盆地には、嘗て湖水となつてゐた處が少くない。

湖沼 湖水には、自然の低い處に水の溜つたものと、一部が塞がつた爲に、湖水となつたものとある。地盤が陥落又は沈降した部分や、隆起した海底の凹所や、河水、氷河等の侵蝕から出来た低部又は、舊噴火口に水を湛へてゐるのは前者の例で、火山の噴出物山崩、氷河の堆石、砂嘴等によつて、溪谷又は海岸の一部を塞がれた爲に、湖水となつたのは後者の例である。

第三章 海 洋

第一節 海及び海水

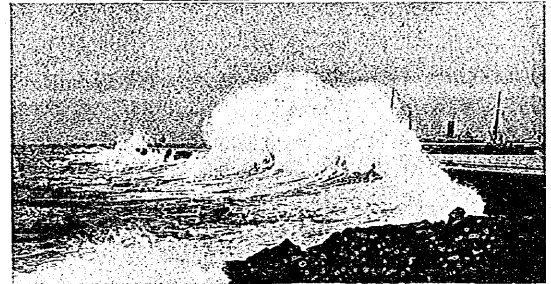
海の形状 地球上の海面は、太平、大西、印度の三大洋に分れ、大洋に



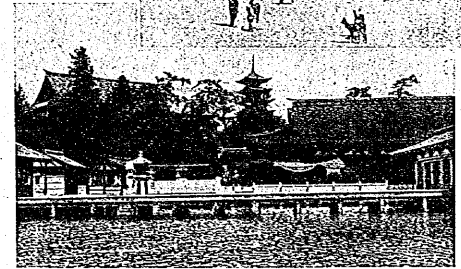
一は① 地盤の沈降による窪地湖、② 谷峽へ湯を水湖大分、③ 湯を水湖大分、④ 湯を水湖大分、⑤ 湯を水湖大分、⑥ 湯を水湖大分、⑦ 湯を水湖大分、⑧ 湯を水湖大分、⑨ 湯を水湖大分、⑩ 湯を水湖大分、⑪ 湯を水湖大分、⑫ 湯を水湖大分



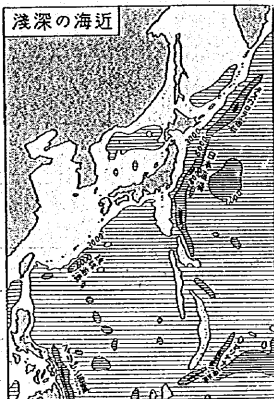
大洋の浪
大洋に於ける光景で汽船と比べて波の大きさが想像される



コロンの海岸
季節風期には山の如き大浪が打寄せ人工築港で之を防いでゐる



厳島の潮汐
潮汐の干満は海を見ない山國では奇異に感ずるが、一は満潮時で御廊が全く水上に浮び、一は干潮時で同じ場所に神鹿が遊んでゐる

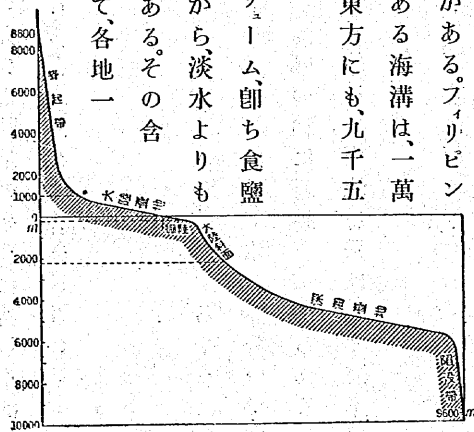


浅深の海近

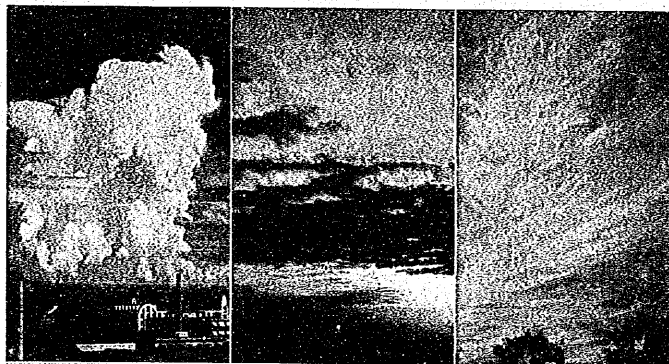
七百九十三米に達し、伊豆諸島の東方にも、九千五百三十五米に達する處がある。

海水の性質 海水は鹽化ナトリウム、即ち食鹽を始め種々の鹽類を含んでゐるから、淡水よりも重く、その比重は凡そ一・〇二六である。その含有量は、雨量蒸發等の關係によつて、各地一様ではない。

海面の温度は處により變つて

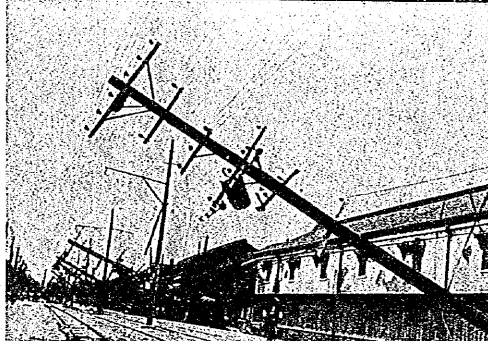


るめ占を部大が地臺海深く狭は帶沒陥・棚陸 斜傾の底海

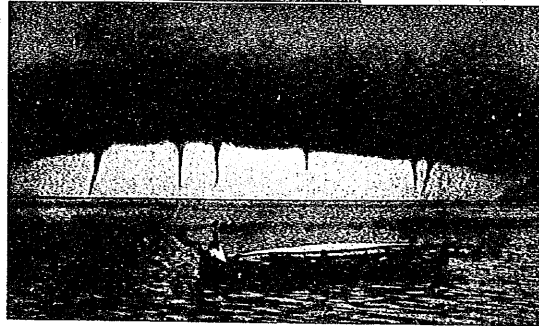


雲の種類(上圖)

①は巻雲で羽毛状をなして高い空に現はれ
②は層雲で割合に低い空に擴り③は積雲で
夏に多く現はれ俗に夕立雲と呼ばれる
風の被害(中圖)



昭和九年關西地方を襲つた大風の被害を示
したもので電線支柱が悉く倒れてゐる



龍 卷

海上に強烈な小旋風が起ると下か
らは水を捲上げ上からは雲が舞下
つて凄壯な光景を現出する

熱帯地方に於いては二十五度寒帯地方では零度或は零度以下である
磯浪は風の如何に拘らず海岸に直角に打寄せる



磯浪の浦静縣岡静
るるてせ寄打に角直し對に岸海が浪磯

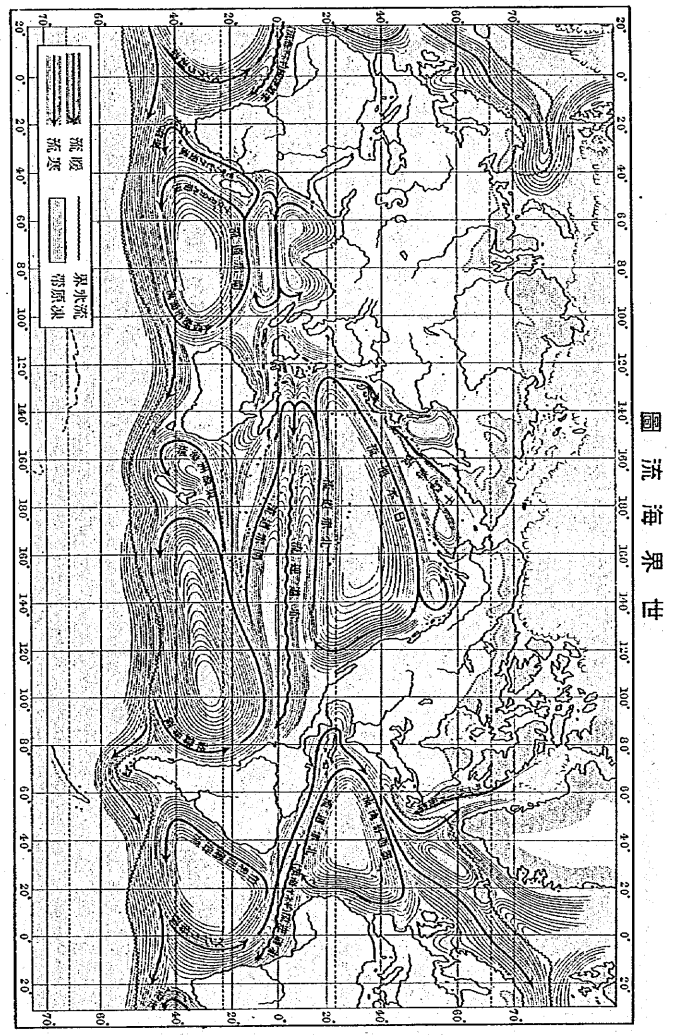
はあるが季節上の變化も緯度上の差異も陸地のやうに著しくはない。殊に深い海底になると常に寒冷で到る處殆ど大差はない。

第二節 海水の運動

波浪 波は風の爲に起る運動で、水が前進するやうに見えるが、實際は唯運動の形を傳へるだけで、水が進むのではない。併し、海岸に近づくとき、海底の爲に運動を妨げられるから、波頭が次第に前方に傾き、終には白沫を飛ばして海岸に打上げる、之を磯浪といふ。

火山破裂地震等によつて、不時に起る巨浪を津浪といひ、暴風の爲に起るのを暴浪といふ。共に海岸地方に對し著しい慘害を及ぼすことがある。

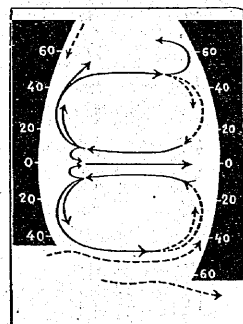
海流 海水の一部が殆ど一定の方向に流れる處がある、之を海流といふ。一定の方向に吹く風の爲に起るものである。



太平洋図

寒流	暖流	日本近海	暖流	寒流	大西	暖流	寒流	太平洋
流	流	流	流	流	洋流	洋流	海流	洋流
千島海流	日本海流	カール海流	ラブラドル海流	メキシコ海流	ブラジル海流	東シナ海流	北太平洋海流	赤道逆流
リマン海流	樺太海流	マダガスカル海流	対馬海流	ベルー				

赤道の附近には貿易風に誘はれて西流する赤道流を生じ、それが大陸に衝突する。



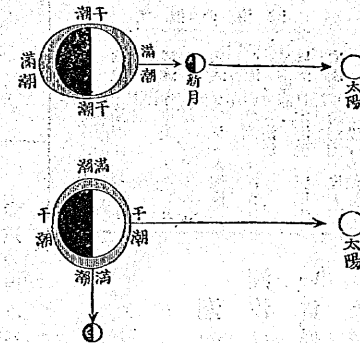
し示を系流海るけ於に洋平太(解図)
流寒は線點で流暖は線實 式圖た

近には貿易風に誘はれて、西流する赤道流を生じ、それが大陸に衝突すると、一部は東に反流して赤道逆流をなし、大部は大陸に沿うて南(南半)と北(北半)とに分れるが、次第に方向を東方に轉じて、大陸の西岸を衝き、その主流は、再び赤道流に合して循環流をなす。この外高緯度地方にも小さい海流が處々にある。

潮汐 海水には、一日に二回の干満がある、之を潮汐といふ。

潮汐は月及び太陽の引力によつて起るもので、月は地球に近い爲、形は小さいが、潮汐を起す力は太陽よりも大きい。

天體は互に引合つて廻轉してゐるが、引力は距離の遠近に



潮小と潮大 潮の満ち干きの月 潮の満ち干きの太陽 潮の満ち干きの月 潮の満ち干きの太陽 潮の満ち干きの月 潮の満ち干きの太陽

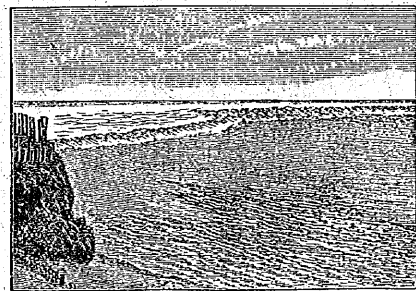
太陽と月との起潮の割合は二と三である
大満潮の際には二と三の力を以て起すこととなる

及ぼす引力の差は、月のやうに甚しくないので、地球の表裏両面に新月満月の時は、太陽と月との潮汐が重つて、干満の差が最も著しい之を大潮といふ。上弦下弦の時は、両者の力が互に減殺して、干満共に著しくない、之を小潮といふ。

潮汐の干満は、地形によつて著しく違ひ、入口の狭い内海では、干満共に極めて少いが、外洋に向つて開いた海灣では、その差が著しい。又

よつて著しい違ひがある。従つて地球の月に向ふ側は、最も強い引力を受け、海水はその爲に引寄せられて水面を高め、月と反對の側は、引力が最も弱い爲に、海水は引残される傾となつて、又水面を高める。斯く月に向ふ側とその裏側とは、水面を高めて満潮となるから、その中間に當る海面は、低落して干潮となるのである。

太陽は距離が甚だ遠いので、地球の表裏両面に



海峽の起るに江塘錢の那友 海峽の起るに江塘錢の那友

錢塘江・アマゾン河等は海峽の現象が甚だ壯觀である

外海と續く狭い海峽では、潮汐の干満毎に、激しい流れを起すことがある、之を潮流といひ、喇叭狀に開いた河口では、満ち上る潮水が、流れ下る河水と逆ひ、水壁を造つて、瀬ることがある、之を海嘯と呼ぶ。

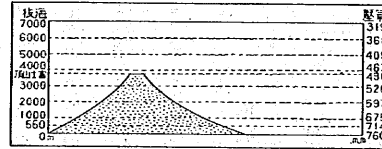
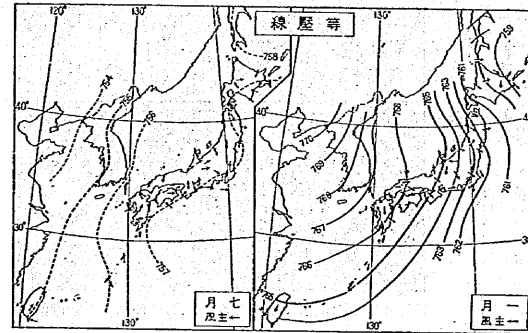
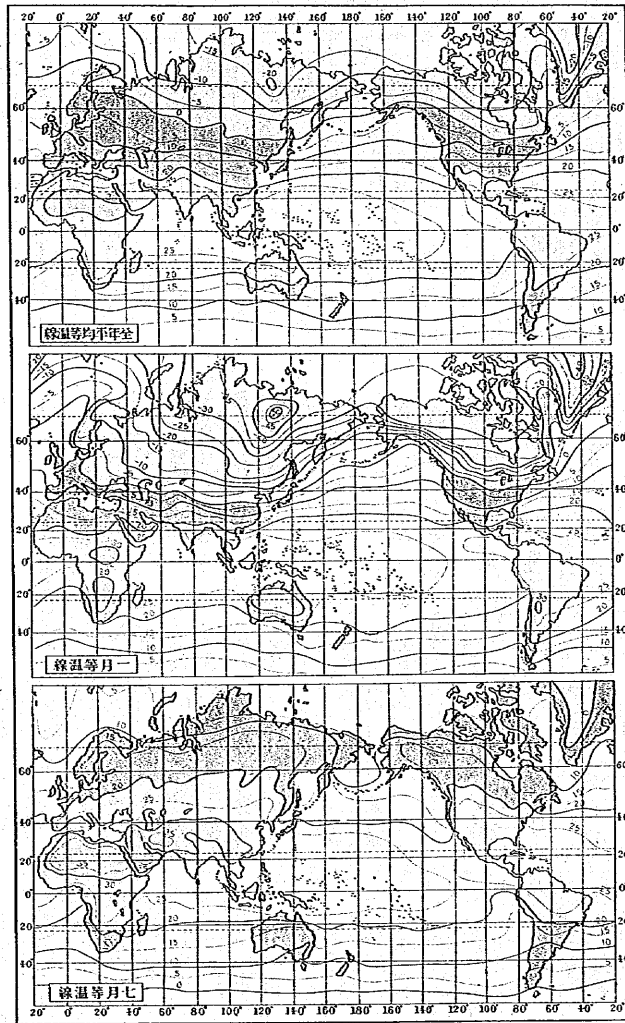
第四章 氣候

第一節 大氣と風

大氣の性質 大氣は、主に窒素と酸素とから成り、多少の水蒸氣等を含んでゐる。大氣層の最高限は、流星の發光等から推して、四百軒を下らないといはれるが、風雲雨等の如き天氣現象の起るのは地上から僅に十數軒の間である。

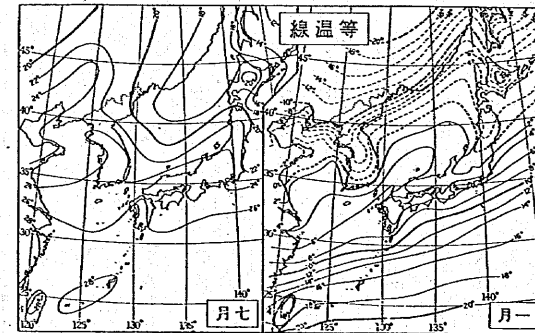
大氣の溫熱は、主として太陽に暖められた水陸の表面から受けるので、緯度と海拔とによつて著しく違ふが、その他水陸の分布風の方向山脈の位置海流の關係等によつても大いに異なり、殊に水陸分布

世界等温线图



高度と气压の関係

分布は、風の方向と密接な関係がある。



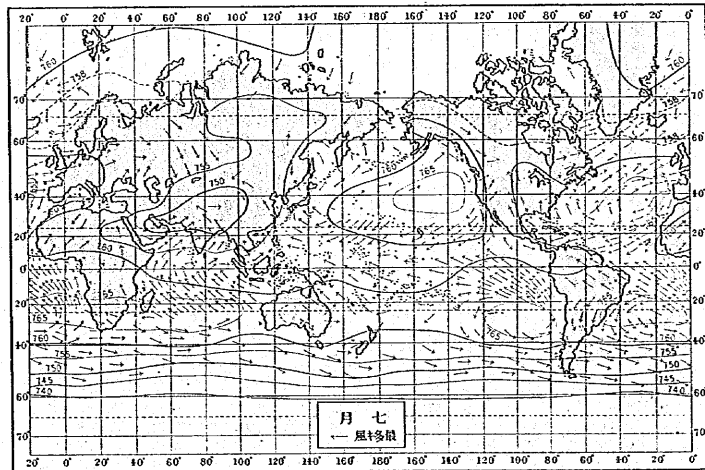
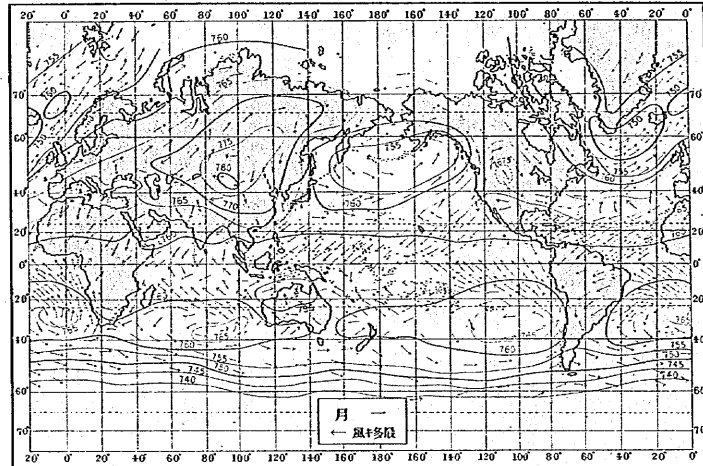
等温線も等圧線も共に海面更正を施して記入するのが普通である

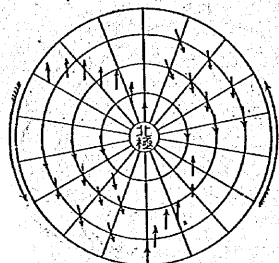
の気温に及ぼす影響は著しく、海洋性気候・大陸性気候の別を生ずる。同時期に於ける同温度の處を連ねて、圖上に記したものを、等温線圖といふ。

大氣の壓力を氣壓といひ、通常海面上の氣壓は、七百六十托

の水銀柱の重さと等しいが、土地の高低大氣の溫度水蒸氣の多少等によつて變るものである。等しい氣壓の地點を線で連ね、圖上に記したものを等壓線圖といふ。その

圖線壓等界世





てつ向に北は又南 化變の向風 図
る變が向方に第次く如の圖は風く吹

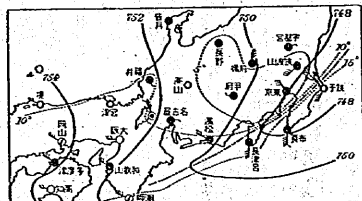
北半球では風を背にして立つと低氣壓はその人の左手の少し前方にあり南半球では右手の少し前方にある

自轉の方向

不連續線 氣溫氣壓等は、上下又は四方に向つて順次に變るのが普通であるが時として急激に變ずることがある。この著しく異なる氣層が接觸せる境界線を不連續線といひ、天氣の急變し易い處である。

大氣の流動 風は氣壓の異なる場合に平均を得んが爲に起る大氣の流動で、その強弱方向等に就いては、バイスバロツト・エルレル兩氏の風則がある。即ち、大氣は高壓の地から低壓の地に流れ、その強さは、兩地の氣壓の差に正比例し、距離に逆比例する。氣流は地球自轉の影響により、北半球では右に偏り、南半球では左に偏る。風には常に一定して吹くもの、時を定めて吹くもの、及び不時に起るものがある。

一定の風 赤道地方は、氣溫が高く、大氣は輕浮上昇して、上層を南北に流れ、氣壓を減ずるから、南北の高緯度地

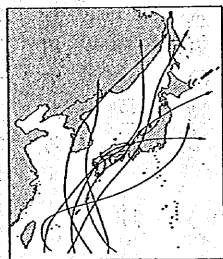


でのもたし示を線續連不は——線續連不 圖
高は南き吹が風北西は又風北で溫低は北の線のと
るゐてつな異くし著が氣天の方南き吹が風南で溫



印度に於ける東北
及び西南の季節風
は甚だ顯著なもの
で日本の大部分は
冬は西北夏は東南
の季節風が多い
供氣壓中心の移動
速度は一時間三十
乃至四十軒が普通
である

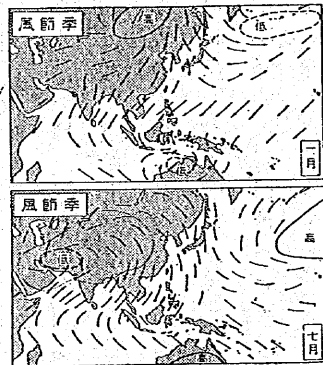
運旋螺が流氣 風旋逆と風旋るけに球半北と南の起るあて果結るけ受を響影の轉自球地て總ものるす



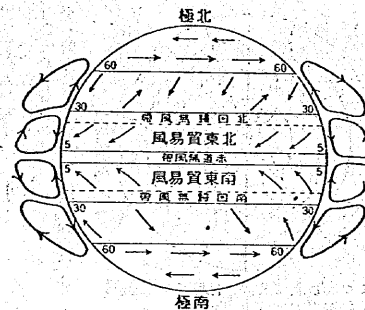
路進の風颪たし來襲に本日

は最初西北に進んで、次第に東北に轉じ、南半球では、初め西南に向つて、次第に東南に轉ずる。
初秋の頃、屢、我が國を襲ふ颪風は、南洋に起つた大旋風で、その中心は、略、一定の

吹く風を受ける、之を季節風といひ、雨量に著しい影響がある。我が國を吹く夏の東南風、冬の西北風は、この季節風である。
特殊の風 一局部に低氣壓が出来ると、周圍の大氣は、旋風となつて此處に流入し、又一部に高氣壓が出来ると、逆、旋風となつて流出する。旋風の中心は、略、一定の徑路を採つて移動し、その熱帶地方に起るものは、北半球では、最初西北に進んで、次第に東北に轉じ、南半球では、初め西南に向つて、次第に東南に轉ずる。



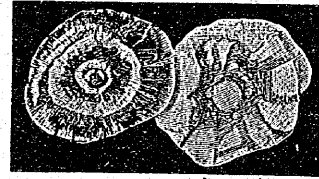
温氣の部内陸大ヤジアは冬② 風前季① 起が風す出吹に邊四てじ生を壓氣高り降が低り昇が温氣の部内陸大に對反は夏③ 起が風む込吹から上海に爲る來出が壓氣



太くなが別の陸水に面表の球地 統系の流氣 揚たし定假とのもるあてし射直を上道赤に常が陽るあて苦く吹く如の圖上に常は風の上球地はに合

方から下層風が赤道に向つて吹いて来る。赤道附近は、この兩風が會合する爲に、氣流が常に靜穩である、この一帯を赤道無風帶といふ。又上層を南北に流れた大氣は、次第に冷えて下降するから、緯度三十度邊は、その大氣の堆積により、氣壓が高く、氣流は常に靜穩である、この一帯を回歸無風帶(風帶)といふ。此處から大部分は、赤道に向ふ下層流に加はり、一部は極地に向つて吹く。此等の氣流は、常に變らないから赤道の南北凡そ三十度内の海上では、四時一定の風が吹いてゐる。この下層流を貿易風といひ、反對の上層風を反對貿易風といふ。
週期の風 陸地は熱の吸收も放散も、水面よりは早いから、晝は海面よりも氣壓が低く、夜は反對に高くなる。之が爲に海岸地方では、晝は海から陸に向ひ、夜は陸から海に向ふ風が吹く、之を海軟風、陸軟風といふ。之と同じく、大陸の縁邊地方では、夏は海上から、冬は内陸から

颱風は中心移動の
 経路により地方で
 受ける風向は一定
 しないが中部以南
 の日本では最初東
 風又は東南風が吹
 き西風又は西北風
 に終る場合が多い



を面断のそで塊電の大物質 面断の電層図
 るみてつ重と層な明透不と層な明透とる見

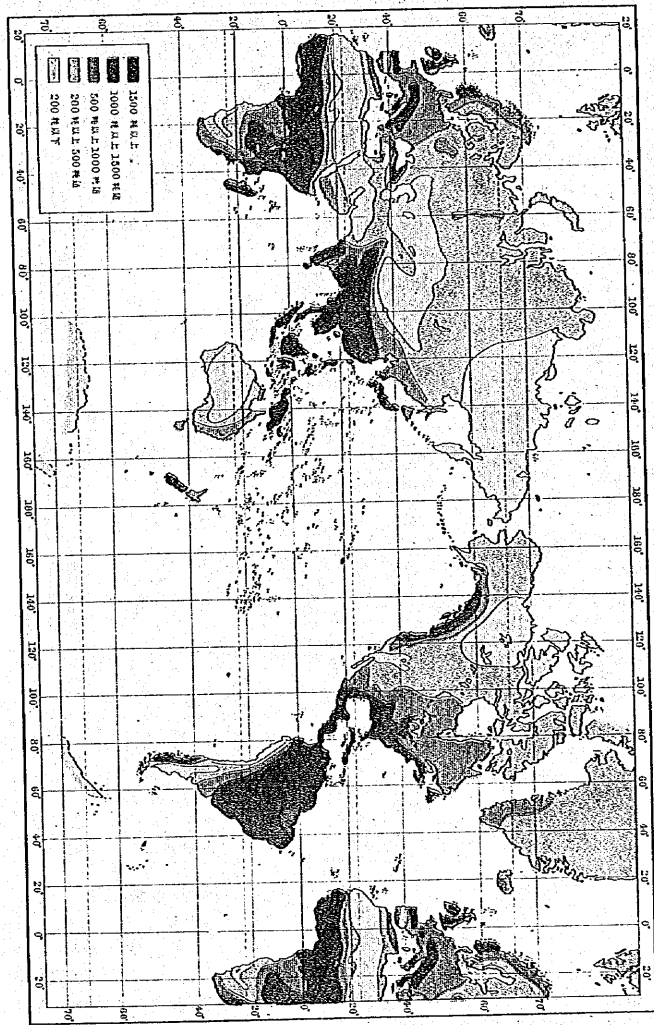
徑路を進行して、前面に多量の雨を降らす。ツムジ龍巻等も、一種の小
 さい旋風である。

第二節 降水及び天氣

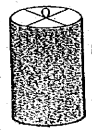
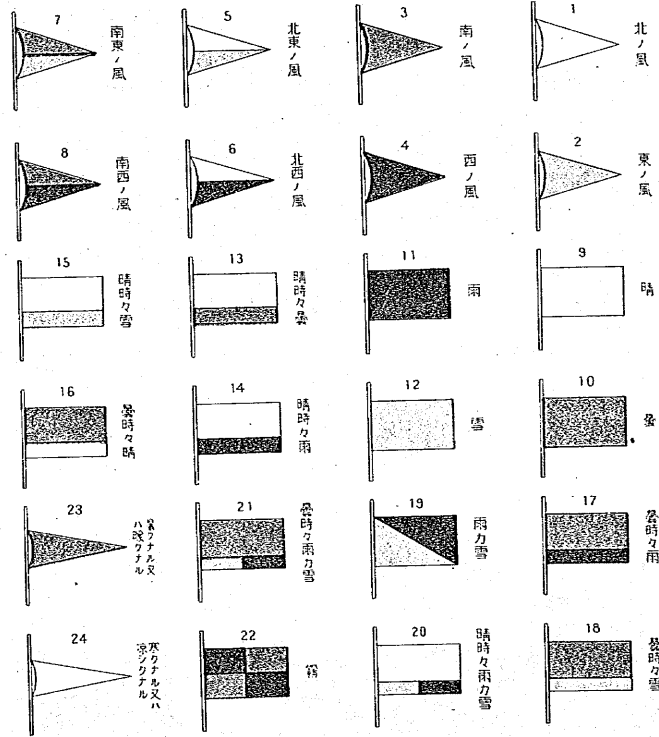
水蒸氣の凝結 大氣中の水蒸氣は、凝結して種々の形をなす。露霜
 雨雪等は、即ちそれである。

露は大氣中の水蒸氣が、冷却した物體に觸れ、凝結したもので、氣温
 が氷點下であれば霜となる。露霜は晴れた靜穩な夜に多い。
 大氣が冷却すると、その中の水蒸氣は、凝結して微細な水滴と
 なり、空中に浮游する。その地面に近い處に出來たのを霧といひ、
 高い處に現れるのを雲といふ。雲の水分子が集つて、地面に降る
 のを雨といひ、氣温が氷點下の時は凍つて雪となる。又不透明な
 小雪塊を霰といひ、透明の層や不透明の層が、重つてゐる塊を雹
 といふ。雹は夏日の雷雨につれて、降ることが多し。

圖 世界の氣壓



天候豫報畫間信號標



暴風警報信號標



風雪力強クナル

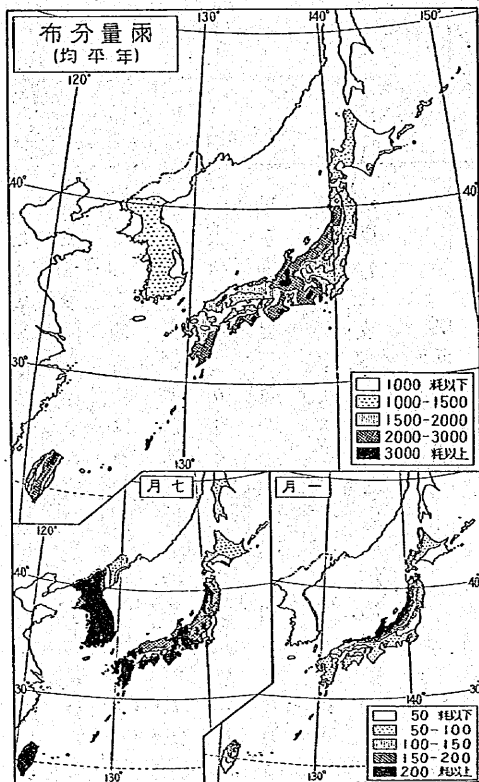


風雨力強クナル



風力強クナル

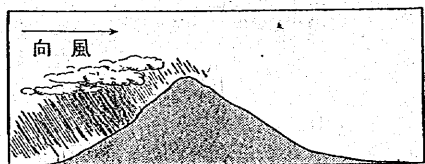
氣象特報信號標



雨雪霰電等となつて、空中から降る水の總量を雨量、又は降水量といふ。雨量は、緯度、海拔、地形、風向、海流等の關係によつて、著しく異なるものである。

天氣と氣候　氣溫、氣壓、風、雨、晴、曇等、その時に於ける氣界の狀態を天氣といふ。

天氣は時々刻々に變るが、それには必然の理由があるから、その理を考へて、將來の天氣を豫測することが出来る。我が國は、東



風向と雨量の關係　風は直に山側多に、少は側面に吹く

中央氣象臺の外に
高層氣象臺(海)
洋氣象臺(等)が
ある

京に中央氣象臺を設け、各地方の測候所に於ける、一定時の報告を集めて、天氣圖を作り、天氣の變化を考究して、全般天氣豫報を出し、暴風雨等の虞ある時は、氣象特報又は暴風警報を出して、その地方を警戒する。又各地の測候所ではその地方の天氣豫報を出す。

天氣は定まりなく變化するが長い年月に亘つて觀測すると、或時期を通じた、天氣の平均狀態を知ることが出来る、之を氣候といふ。氣候は緯度の高低によつて、異なるを原則とするが、地形や水陸分布等の關係に支配されることも極めて多い。

第五章 住 民

第一節 自然と人生

人は他の動物と違ひ、天與の智能により、自然に打勝つて住所を擴げるから、今は兩極地方の小部を除き、殆ど到る處に住んでゐる。併し、自然の環境は、その發達の助けともなり、又は進歩の妨げともなる。



料の食衣が民住の地寒⑤ 民住の地熱と民住の地寒⑥
が民住の地熱⑦をみてし獵狩、つひ戰と氣寒に爲る得を
るゐてと興り踊で體裸に氣し樂した充を腹に物食の與天

氣候と人生 人類の活動に影響を及ぼす地理的條件の中で、最も重要なものは氣候である。氣候は直接に人類の移動を制限し、衣食住の原料を決定し、文化の發達にも重大な關係がある。植物發生の盛な熱帶地方に住む者は、野生の果實草根に生命を托して、その葉に雨露を凌ぎ、衣服の必要もないから、刻苦勤勞の念に乏しく、自ら懶惰に流れ

て向上心に乏しく、人智の發達が後れ、極寒の地方では、終始生活の資料を得ることに追はれて、他を顧る遣がなく、殆ど文化の發達が見られない。獨り溫帶の地方は、氣候に變化があつて、各種の天産に富み、生活の料は豊であつても、勤めなければ之を得られないから、自ら勤勉進取の風が養はれ各種

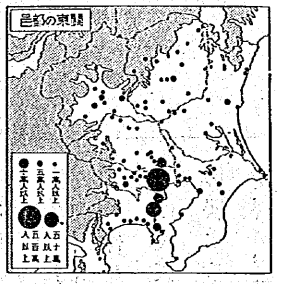
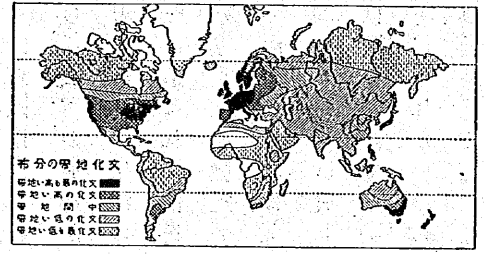
ナイル三角洲・ガ
ボタミヤ地方は高
い太陽熱と時期を
限った雨水の供給
とによって早く農
業時代に入つて人
類文化の萌芽を發
達したがその文明は
温帯に移つて益々
發達した

ヒマラヤ山脈の南
と北とは民族が違
ひ我が國でも鈴鹿
山脈によつて兩側
の民情に幾分の相
違がある

の産業が起つて、文化の發達を促し、世界の文明國は多く温帯の地にある。

地形と人生 山脈は交通上自然の障壁となり、その兩側に住む人民が、文化、風習等を著しく異にするは、屢見る所で、古來山脈を國境とした場合は頗る多い。山地は高さの加はると共に氣温が減じ、殊に起伏の著しい處は、人類の活動に不便で、人口の少いのが普通である。従つて山地の産業は、鑛業、林業又は小規模の牧畜等に限られ、此等の中心市街又は温泉風景等の爲に、特殊な聚落の出来ることはあるが、大都會の發達には適しない。

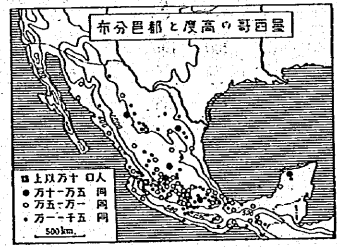
平野は地味が概ね肥沃な上に、開墾が最も容易で、交通路も開き易いから、氣候の許す限りは、各種の産業が發達し、人口が此處に集中して、文化の進むのが常である。殊に河湖を有する場合は、その關係が一

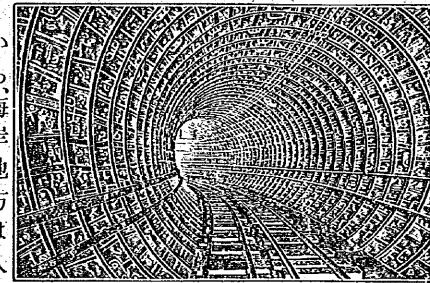
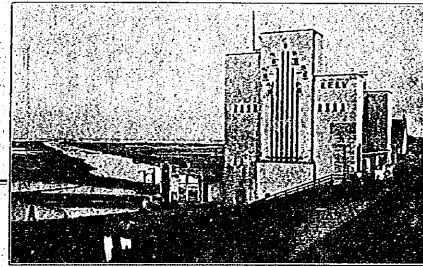


層深い。河湖は耕地を灌漑し、或は交通路となり、或は發電の原動力となり、或は飲料水工業用水ともなつて、人類に貢獻することが極めて大きい。支那、印度、エジプト等の古代文化は何れも大河と密接な關係があり、又鐵道の發達以前には、河湖が唯一の交通路となることは、揚子江、コンゴ河等が、その著例を示してゐる。山地でも聚落は先づ水邊に興り、平野に於ける河湖の沿岸に、大都會の多い例は枚舉に遑がない。

山地と平野との中間性を持つのは、高原又は盆地である。殊に熱帶地方の高原では、交通は不便であつても、氣候が快適な爲に、人類が此處に集り、文化地域を高地に見ることが少くない。南米、中米等には、その例が多い。

人は斯の如く、地形の拘束を受けることは少ないが、人智の進むにつれて、隧道を鑿ち、運河を開





一、ダラオのダンラオは、道隆底河と地立埋、道隆底河の河トスイ國米たせ合繼を管鐵は、で

き、又は海面を埋める等、天然の障害に打勝ち、自己の生活に便利なやうにして行く。

海洋と人生 海では直接に人類の生活は出来ないが、活動とは密接な關係がある。海は氣候を調和し、水産物を供給して、産業を與へる外、自然の交通路となつて、思想文物の交換を助ける

から、海岸地方は人文の發達が著しい。殊に海岸線の屈曲が多く、良港灣のある處は、早く文明の進んだ例に乏しくない。人智の未だ進まなかつた時代には、海は交通上の障害をなし、國家又は民族間の境界となつてゐたが、造船航海の術が進歩し、貿易が益發展するにつれて、海の利用が盛になり、現在では、海に對する關係の良否が、直に國運の隆替にも係はるやうになつた。我が國の如き海國

は將來益發達する望が多い。

第二節 住民の狀態

人種 世界の住民は、風俗習慣を始め、容貌體格等が處により著し

人種	特 徴	主要民族及び住地	現 狀
種人 ヤ ジ ア	皮膚が黄色(黄色人種)。 顔骨が出 て鼻 は中 位。 髪は 黒く、 短く、 ね直。 鬚髯が少い。	北部 日本族 朝鮮族 滿洲族 蒙古族 アイヌ族 トルコ族 フィン族 ラップ族 マジャール族 印度支那族 苗族 西蔵族 アジヤ	以上の外、今は アメリカ西部及 び南洋等に移住 する者も少くな い。
種人 バ ッ ロ ー ヨ	皮膚が白色(白哲人種)。 額が廣く鼻 が 高 い。 髪は 概ね 褐色で 波狀。 鬚髯が多い。	北部 コロンビア族 パース族 スラベン族 ケルト族 インド族 エジプト族 アフリカ北部 アフリカ南部 各所に散在	世界の各地に植 民地があつてア メリカ、大洋洲 及びアフリカ等 の主要地は概ね ヨーロッパ人種 の住む處であ る。

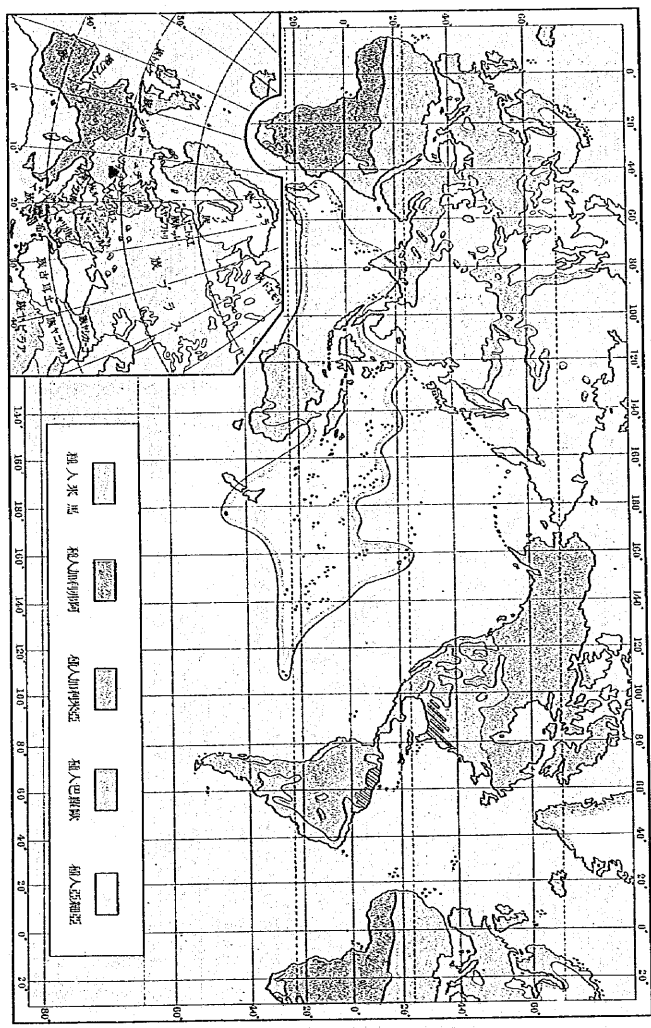
アジヤ人種は又蒙
古人種ともいふ

ヨーロッパ人種は
又コーカシヤ人種
ともいふ

く違つてゐる。之は長く住所を別にし、異なつた自然的環境の中に、異なつた生活を續けて來た結果と思はれる。通常身體言語風習等の異

種人ーレマ (民住嶼島岸海)	種人カリメア	種人カリファ
皮膚が褐色。額が突出して鼻が低い。髪は黒く縮毛。鬚は少く縮毛。鬚は少く。 	皮膚が銅色(銅色人種)。顔骨が突出して鼻は高く直又は波状。鬚は少く。 	皮膚が黒色(黒色人種)。額が扁平で鼻が低い。顔骨が突出して唇が厚い。髪は黒く概ね巻縮する。鬚は少く。 
オーストラリア族 ポリネシア族 メラネシア族 マレー族 ドラビダ族 ホバ族	エスキモー族 インデヤン族 パタゴニヤ族 フエゴ族	ネグロ族 小ネグロ族 准ネグロ族
大 洋 洲 アジヤ南部 及ビ東南部 (マダガスカル)	北アメリカ 南アメリカ	アフリカ中部以南
多数の種族を集めた名稱で、一系統をしてゐるものではない。今は勢力が次第に衰へ、中には絶滅した處もある。	南北兩米に互つて廣く住むが、歐洲人の渡航以來、勢力が次第に衰へてその數が減つた。	奴隸として一時盛にアメリカへ送られたから今もその地に在住する者が少くない。

世界分種人界世

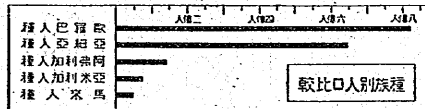
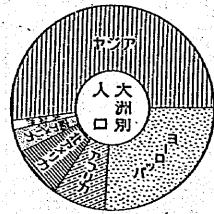


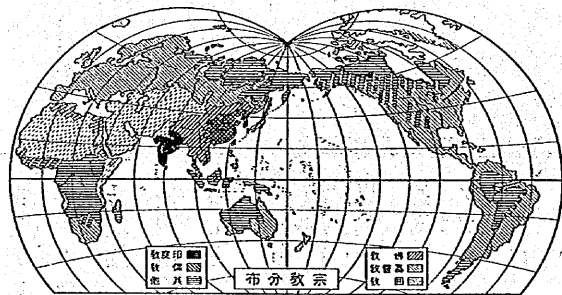
同を究め、その似たものを集めて、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・マレーの五人種に別け、各人種は、更に數多の民族に分れる。

民族 民族は、自然の環境と、歴史・文化等の關係によりて、特有の風俗習慣等を持つてゐる、之を民族性といふ。近年民族による國家を造らんとする傾向が著しくなり、歐洲の新興國には、この例が多い。

我が國は、日本民族を主腦とし、朝鮮族・漢族等がある。日本民族は、この國土に起原し、發達して、忠君愛國の念に厚く、世界無比の國家を擁護し、獨特の文化を建設してゐる。この他臺灣には少數の蕃人（マレー）が住み、北部にはアイヌ・オロコ・ニクブン（ヤク）等の土人がある。

人口 世界の人口は、約二十億と稱せられ、その大部分は、アジア・ヨーロッパに住んでゐる。人口の密度は、自然の環境や、産業・歴史等の關係によつて著しく違ひ、東

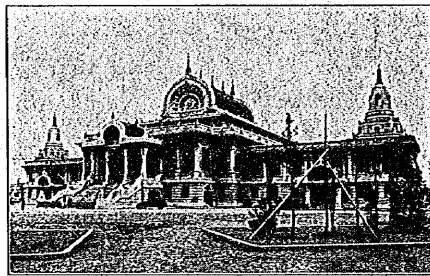
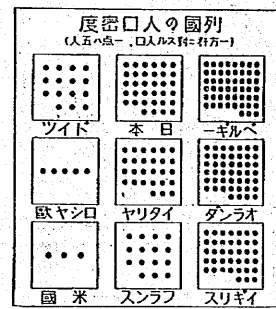




亞印度歐洲の中部以西は、最も稠密の地帯で、熱帶森林山地沙漠極地等は、極めて疎である。又農牧地方では、人口が普遍的に分布し、商工地方では、一部に集中してゐる。我が國は、一億に近い人口を包容し、その密なことは、世界の稀に見る處である。

言語 世界に行はれる言語は、その種類が極めて多い。中でも英語は、英米の兩國と、その植民地とに行はれる外、廣く世界の商業語として勢力がある。スペイン語は北米の南部から、南米にかけて用ひられ、フランス語は社交語として、ドイツ語は學術語として、共に國際的に用ひられる。

我が國語は、歐米の言語と系統が異なるので、國際交渉の多い現代に於いて、不便の點も少くないが、國民の大部が同

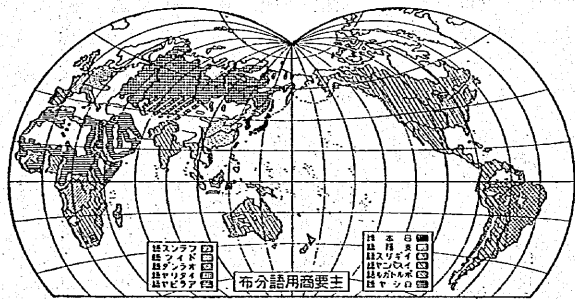


東京西本願寺別院の風景を模したドグナ建築

印度語・支那語等も之を語る者は多いが國際的の言語ではない
佛教・キリスト教・回教・印度教・ユダヤ教は之れもアジアに起つた宗教である

一の言語を用ひてゐるから、意志がよく疏通し、國民の結合が極めて強固である。

宗教 宗教は永い歴史によつて、民族精神と融和し、言語と共に統一上大切なものである。世界大宗教といはれるものは、佛教キリス



ト教回教印度教等である。佛教は東部アジアの諸國に行はれ、キリスト教は歐米人の住む各地に擴まり、回教は西南アジア、北部アフリカ、東南ヨーロッパ等の住民に信ぜられ、印度教は印度に盛である。その他にユダヤ人はユダヤ教を信じ、西藏蒙古等には喇嘛教（佛敎の一派）が行はれる。國家により、或宗教を國教と定めてゐる處もあるが、我が國では、憲法により信仰の自由

都會の多少は必ずしもその國人口の多少によらず、寧ろ住民の生業によるものである。農業國には村落が多く工業國には都會が多

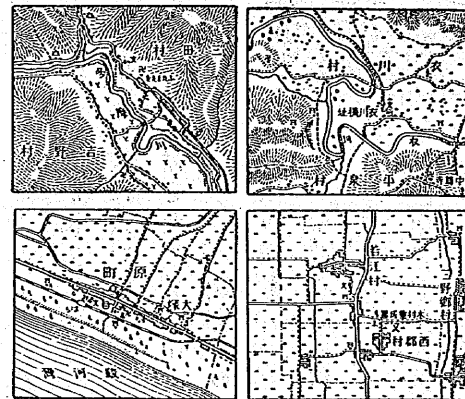
を許されてゐるが、佛教を信ずる者が最も多い。

第三節 人類の住所

聚落 人の集つて住む處を聚落といふ。狩獵遊牧の民は一處に定

住してゐないが、農業を営むやうになれば定着して村落を造り、商業が起れば物資交換の中心市が起り、産業の發達につれて、次第に大都市が出来るやうになる。

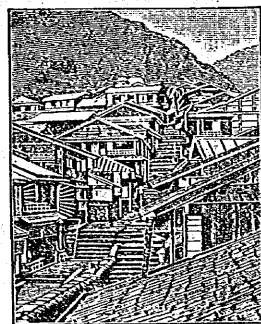
聚落は、地形水利等の關係や發達の事情によつて、様々な形をなす。即ち民家が廣く散在してゐる散村、多く密集してゐる



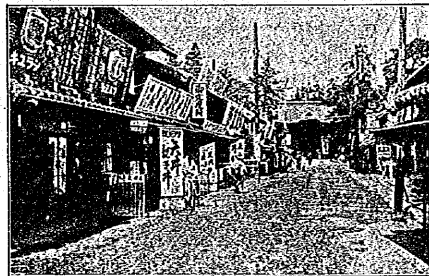
各圖の聚落の種別 ① 散村 ② 集村 ③ 山村 ④ 市街 ⑤ 市街 ⑥ 市街 ⑦ 市街 ⑧ 市街 ⑨ 市街 ⑩ 市街 ⑪ 市街 ⑫ 市街 ⑬ 市街 ⑭ 市街 ⑮ 市街 ⑯ 市街 ⑰ 市街 ⑱ 市街 ⑲ 市街 ⑳ 市街 ㉑ 市街 ㉒ 市街 ㉓ 市街 ㉔ 市街 ㉕ 市街 ㉖ 市街 ㉗ 市街 ㉘ 市街 ㉙ 市街 ㉚ 市街 ㉛ 市街 ㉜ 市街 ㉝ 市街 ㉞ 市街 ㉟ 市街 ㊱ 市街 ㊲ 市街 ㊳ 市街 ㊴ 市街 ㊵ 市街 ㊶ 市街 ㊷ 市街 ㊸ 市街 ㊹ 市街 ㊺ 市街 ㊻ 市街 ㊼ 市街 ㊽ 市街 ㊾ 市街 ㊿ 市街

集村、長く斷續してゐる鏈村列をなして並ぶ街村、及び傾斜地に階段狀をなしてゐる層村等がある。

都市の種類 都市の發達する原因には種々あるが、之を大別すると、政治都市・國際都市・教育都市・生産都市・交通都市・歴史都市・保養都市等があり、其等の多くは、政治軍事産業等の中心地に勃興するのが常である。その他社寺の門前に發達せる門前町や勝地古跡等の所在地に出来る遊覽町等がある。



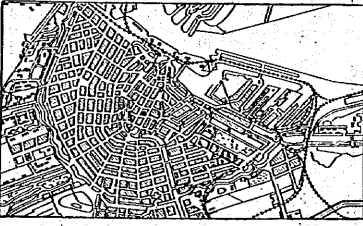
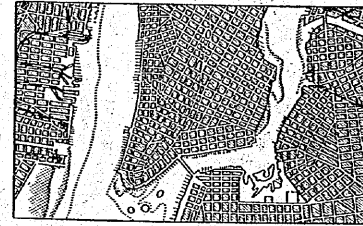
例の村居層 山腹に居て散発してゐる 例の村居層 山腹に居て散発してゐる



豊稻川門前の土産店飲食店等が比する

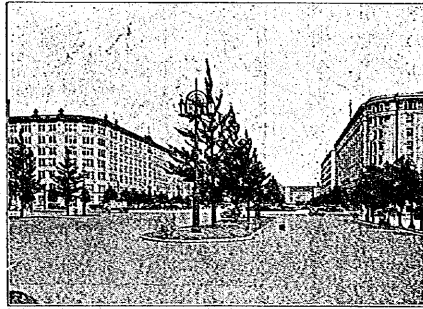
都市の形 都市の形を決定せるのは道路である。昔の都會は、多く自然の發達に委せてあつたから、道筋が概ね不規則であるが、近年建設される市街は、豫め設計して造るから、格子狀（京・都・二・三）放射狀（大・小・一・二）同心圓狀（ル・ム・ス・テ）及び此等を

格子狀（京・都・二・三）放射狀（大・小・一・二）同心圓狀（ル・ム・ス・テ）及び此等を



④ クレーン・ニの格子 ⑤ 状形の街市 ⑥ 連大の状射放は
ムダルテスマアの状圓心同は

都市計畫 都市の發達につれて、保健上に色々の
支障も出来るから、その害を除いて、福利を増進す
る爲の設備を都市計畫といふ。都市計畫には商業
地域、工業地域、住宅地域等の區別を施し、交通の便
利、健康の保持は勿論、都市の美觀をも計つてゐる。
都市の美觀の爲には、建築物の高さ、材料等を制限
し、道路に街路樹を植ゑ、十字街に小公園を造り、又
公園式道路を建設せる等、種々の設備を施す。大都



路道前驛京東と然整が樹路街 路街たれさ化緑園

組合せたもの（ベカン）など、極
めて整然としたものが多
い。我が國でも、北海道樺太
等の如き新開地の都邑に
は、この實例が少くない。

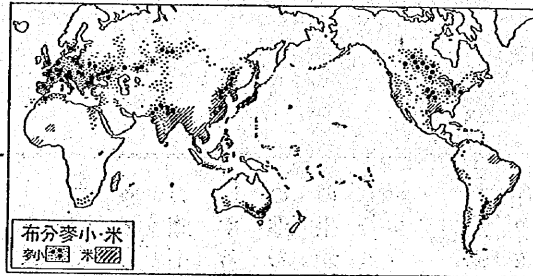
市の道路は、斯くして次第に緑化されてゐる。

第六章 産業

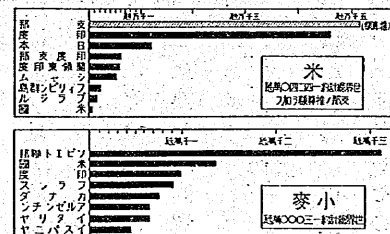
人は生活上の必要を充たす爲に、種々の仕事をする。之を産業とい
ひ、農業・牧畜・業・林・業・水・産・業・鑛・業・工・業・及・び・商・業等の別がある。産業は平
原地方に農業・牧畜業が發達し、海岸に漁業・航海業が興る如く、その地
の適不適により、地方的に分化進展して行くものであるが、交通が發
達するに従ひ、その區域が擴つて、世界的の分業となり、殊に近年拓殖
の進むと共に、その傾向は愈著しく、農業・國・工業國等の別を生じて、そ
の生産物を交換し、通商貿易が益々繁盛となる。

第一節 農業

主要の農産 農業は土地の支配を受けることが最も多く、各地特
有の産物を出すから、その種類は極めて多いが、最も重要なのは米・小

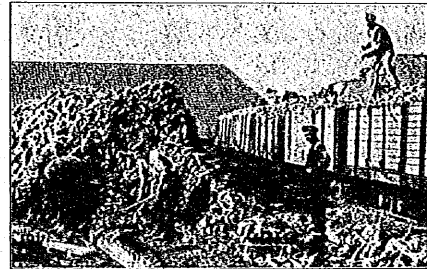


米 小麦 大麦



入の額が少くない。小麦は欧米人の主食物で、歐洲はその大産地であるが、人口が稠密な爲に、東部の外は輸入が多く、米國、濠洲、アルゼンチン、印度等は、重要な輸出地である。我が國も、小麦の産額は増加したが、製粉業の發達が著しく、その原料として

麥等の食糧品、砂糖、珈琲、茶、煙草等の嗜好品、綿生絲、麻等の工業原料品である。米は之を常食とするアジアの季節風帶を主産地とし、印度支那からは他へ輸出も多い。日本は古來瑞穂國と呼ばれ、主要の米産地であるが、人口が多いので内地の産額のみでは不足を告げ、移



ぶ運に場工で車列を根菜甜るせ積山 搬運の根菜甜



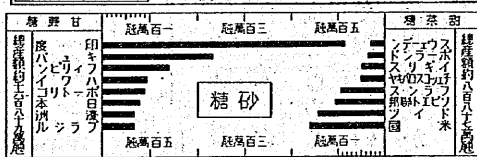
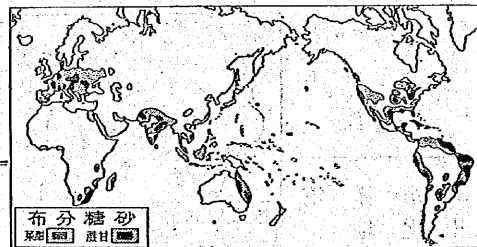
米國の農場
廣漠とした農園に、農夫は機械を用ひ大規模な農業を行つてゐる



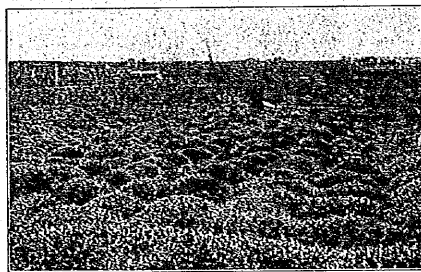
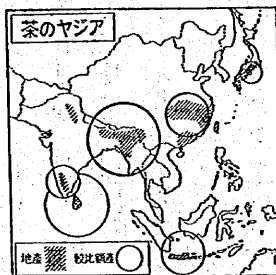
ブラジルの珈琲園
際限もなく波状の小丘が續き其處が一面に珈琲園となつてゐる



北海道の農場
他府縣では見られぬ大規模の農法で新開地らしい氣分が充ちてゐる



ので、今では印度・セーロンの紅茶に壓迫されてゐる。珈琲はブラジルから世界の約七割を出



園茶陵丘腹山 園茶静るあで縣岡原方

輸入が少くない。砂糖の主要原料は甘蔗と甜菜である。甘蔗糖は印度東印度諸島西印度諸島等の温暖な地方を主産地とし、甜菜糖はヨーロッパ北アメリカ等の稍寒冷な地方から多く産する。我が臺灣も甘蔗糖の世界的大産地で、精糖の輸出が少くない。茶は東南アジアの季節風帯から多く産し、支那日本はその大輸出地であつたが、緑茶の製造を主とした



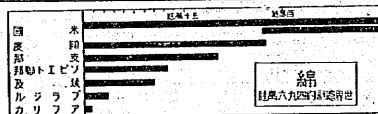
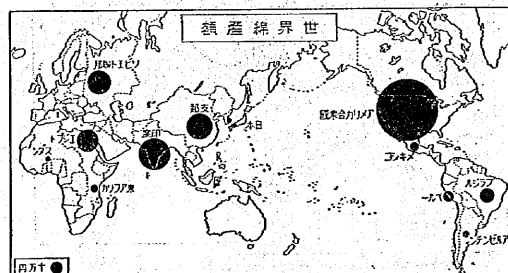
さすがに世界第一の羊毛産地で原野一面が羊の群に被はれてゐる



スイスの牧畜
後は高山前は深谷 僅に山間の狭い斜面が牧場に利用されてゐる



雲仙、國立公園
眺望に噴氣孔に名高い雲仙山麓の白雲牧場で長閑な風景を添へる



く・**亞麻**（リシネルの原料）・**大麻**（麻絲麻布等の原料）等はロシアを主産地とし・**マニラ麻**（綱真田等の原料）はマレー地方から多く産し・**黄麻**（包装の原料）は印度に多く・**サイザル麻**（網袋等の原料）は乾燥の熱地に栽培される。

日本ニッポンの農業ノウギョウ 我われ

民タタの五割五分は之

臺灣タイワン、朝鮮チョッセンでは農民

の割合は更に多い。

地形チヘイの關係上、耕地ケイヂが割合に

狭せまく、新開地シンカイチの外ほかは、農法ノウホウは小

規模コモリであるが、氣候ケイグアイ地味ヂミに恵

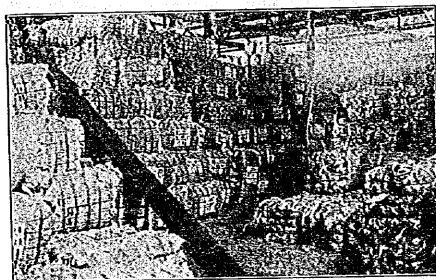
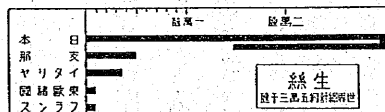
まれて、産物サンブツの種類シユルイが甚おだ多く、且また將

來ライ、土地チキの利用リヨウを進め、農事ノウジの改良ケイリョウを

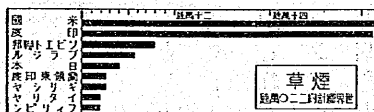
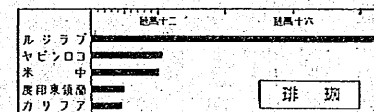
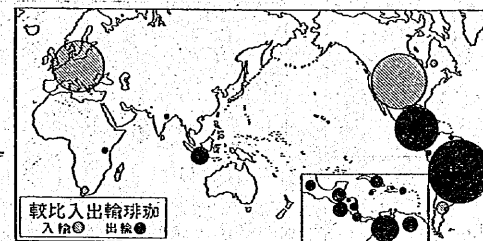
施セせば、増産ゾウサンの餘地ヨウヂも少すくくない。



国名	農業地割合 (%)
日本	50.0
朝鮮	45.0
臺灣	35.0



俵の麻ラニマたれさ積山に内庫倉 積堆の麻ラニマ **解図**



シアメリカの熱帶地方、マレー諸島等からも輸出する。煙草⁽⁶⁾は米國と印度とが、世界の二大産地で、西印度^(ハバナ)、東印度^(マニラ)、エジプト、トルコ等からは、良質のものを出す。

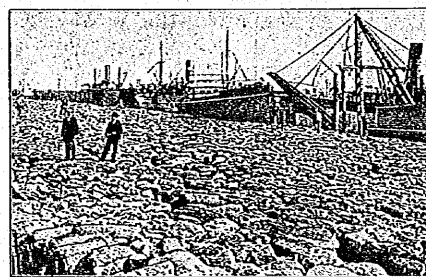
第一位を占める。生絲は日本が世界の最大
 產地で、總額の約八割を産し、支那イタリヤ等
 が之に次ぐ。我が國は生産額の約三分の二を
 輸出し、重要な輸出品である麻には種類が多

には輸入に仰ぐから、繰綿は常に輸入品の
 に稍多く産するが、紡績原料の殆ど全部
 多い。我が國では朝鮮

緯は米國から世界
 度支那ロシア・エジブ
 ト等にもその産額が

比較輸入輸出咖啡
 入館 出館 ●

国	輸出 (出館 ●)	輸入 (入館)
アメリカ	約 80%	約 80%
ブラジル	約 10%	約 10%
インドネシア	約 5%	約 5%
ジャバ	約 5%	約 5%
スマタラ	約 5%	約 5%
その他	約 15%	約 15%

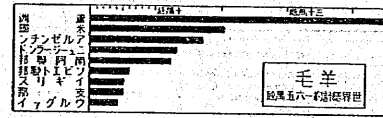
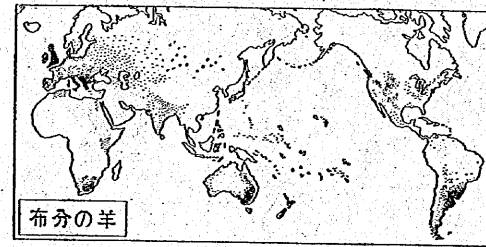


積堆の綿るけに港ントスベルガの國米 出積の綿

第二節 牧畜

主要の家畜 家畜は食料となり、運輸機關と

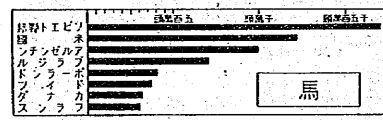
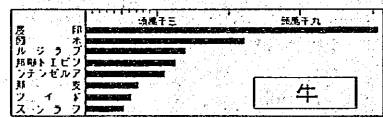
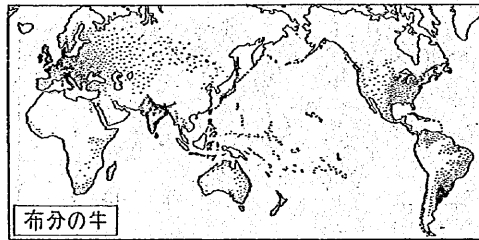
なり、又纖維皮革等の工業原料を供給して、人類の生活に寄與する處が極めて大きく、その種類も甚だ多いが、羊・牛・馬・豚等は殊に重要なものである。



牧畜は平野の廣いヨーロッパ・南北アメリカ・濠洲南部・アフリカ等に盛で、殊に新開の地方では肉毛が重要な輸出品である。濠洲は世界に於ける羊・毛の約三分の一を出し、その中の約四分の一は我が國へ送られる。牛は印度・米國・ロシア等が主産地で、馬はロシア・米國・アルゼンチン等に多く、豚は支

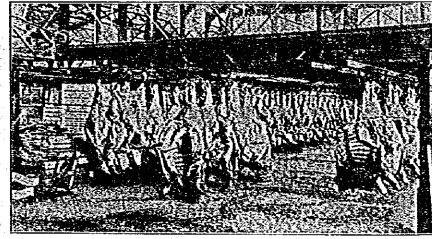


るゐてし檢點を位品が人商 積蓄毛羊のーニドシ



那米國・ドイツ等に多い。

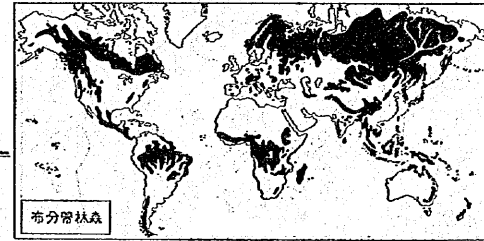
日本の牧畜 我が國民は、古來肉食・毛衣の習俗がなく、馬・牛等を騎乗・運搬等に使用したに過ぎない。近年生活の様式が變化して、畜產品の需要が激増し、牧畜の進歩は著しいが、我が國の自然關係は到底大規模の牧畜に適しないので、畜產品の輸入は甚だ多く、殊に毛織工業の進展と共に、羊毛の需要が激増し、その大部分は濠洲・南阿等から供給を仰いでゐる。



肉牛たれらへ貯に内庫藏冷のーニドシ 藏貯的肉牛

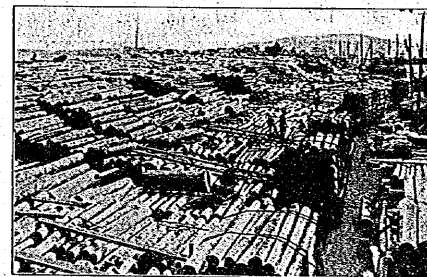
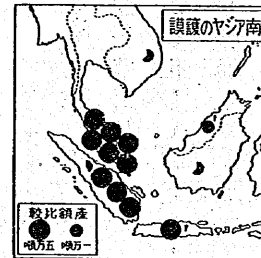
第三節 林業

林産地方 森林は極寒・極乾の地を除けば、

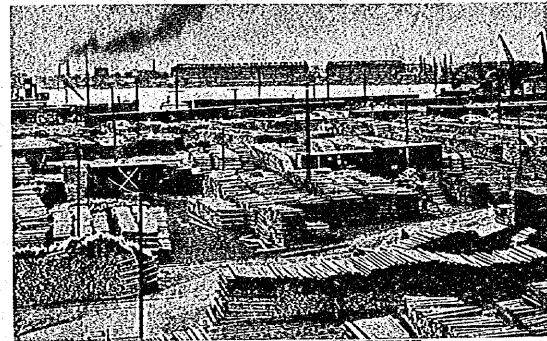


殆ど到る處に見られるが、ユーラシヤから北米に至る寒冷地帯と、南米及びアフリカの熱帯多雨地とは、廣大な森林に被はれてゐる。現在の林産國は米國、カナダ、ロシア、ドイツ、スウェーデン等、我が國も主要林産國の一である。林産の最も重要なものは木材で、近年製紙用パルプとしての需要が益増加し、又ゴム樹から採るゴムも世界的に名高い。

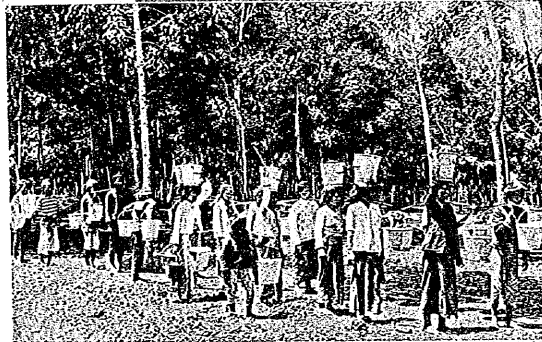
日本の林業 我が國は、氣候風土が植物の生育に適し、全面積の半以上は林野に被はれ、世界屈指の林産國であるが、地形が峻しく、運搬に困難が多いので、建築用材は、相當に多量の輸入を仰いでゐる。



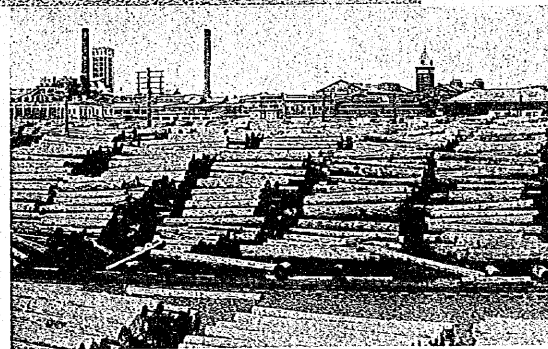
材入移のらか道海北は分部大 材木たつ集に驛水清



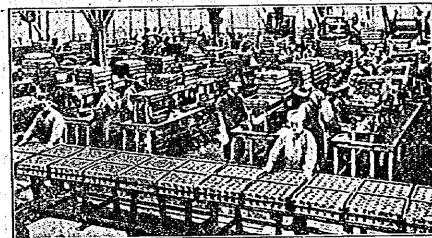
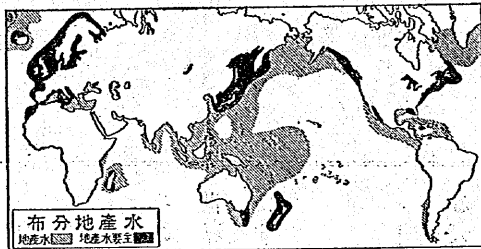
レニングラードの木材
製材して輸送を待つ木材が多数の
大山小山を造つて埠頭に積まれる



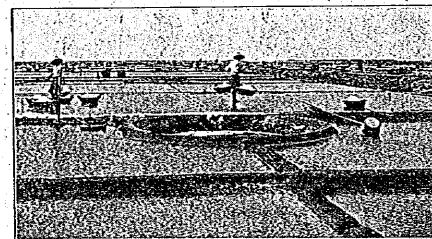
マレー地方のゴム林
採集したゴム液の容器を頭上に載
せ又は手に提げて工場へ運び行く



北海道のバルブ工場
苦小牧にある王子製紙會社の工場
で累積される木材はバルブの原料



日本水産物市場の光景

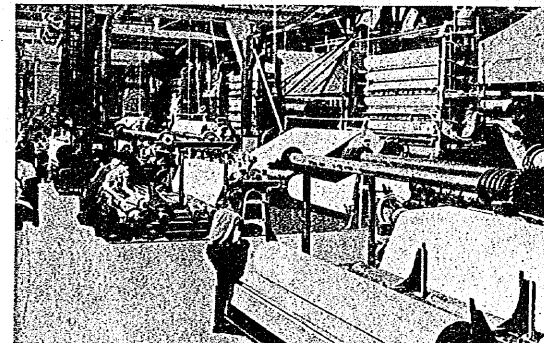


ロンドン市場の水産物

大漁場と呼ばれる。世界の三
獲物は魚類を主とするが、海
獣・海藻等もある。又水産物の一
種に食鹽がある。欧米諸國では、
多く岩鹽として産するが、地中海
地方や日本では、海鹽を採つて
ある。

水産物 海洋は地球表面の約四分の三を占めてゐるが、その中、漁
利の多いのは陸棚と呼ばれる淺海である。世界の中、漁業の盛なのは
日本の近海、北海の附近及びニューファンドランド附近で、世界の三

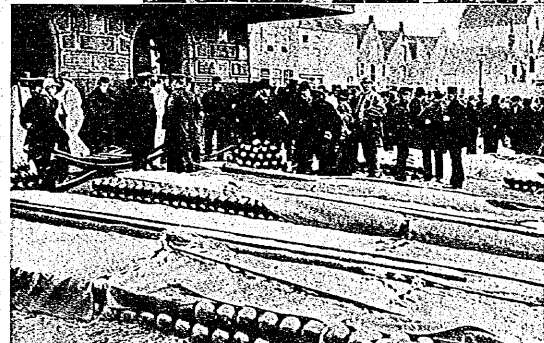
第四節 水産業



米國の製紙工場
製造されて間もなく出て来る紙は
一方から次々に捲きに捲取られる



ドイツの機械市
毎年春秋の二季にライプツヒで開
かれ世界的に著名な機械の見本市

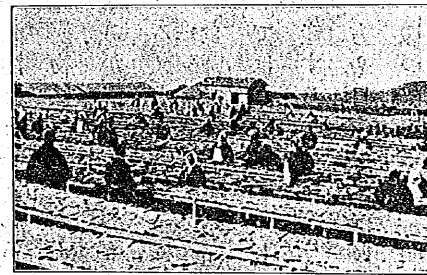


オランダの乾酪市場
大砲の形をした古い乾酪球を無
数に並べ陳列の布が懸けてある

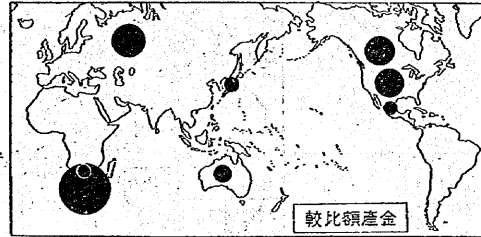
日本の漁業 我が國は、四面海に圍まれて、水産物の種類が多く、殊に近年、遠洋漁業も發達して、漁獲高の多いことは、世界第一に位し、その加工品は、輸出も頗る多く、又養殖眞珠は、世界的に知られてゐるが、鹽は僅に食用を充たすに止り、工業原料に供する餘裕がない。

第五節 鑛業

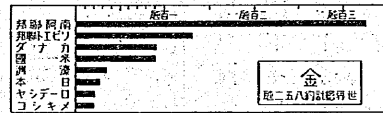
鑛産物 鑛物の殆ど全部は、地中に含まれる天恵の富源で、氣候、風土等の影響が少いから、鑛業の運命は、埋藏量によつて決定される。鑛物の中には、石炭、石油等の如く、現形の儘で存在するものもあるが、金屬鑛物の多くは、化合物として採掘され、その冶金製鍊には、熟練した技術と、豊富な資金を要するから、文化の進んだ處でないといふと、埋藏量は豊でも、鑛業は必ずしも發達してゐない。



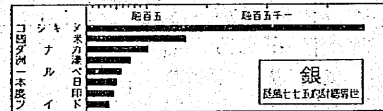
風景たし乾を經開に面一く廣 揚乾の鹽の道海北



較比額産金



金

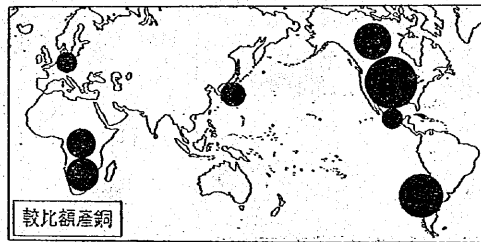


銀

の用途も、金と同じく貨幣の原料、裝飾等に供せられ、その大産地は、北アメリカ洲で、メキシコの産額は世界の五分の二を超える。銅は各種の器具材料となり、近年電氣事業の發達と共に、その用途が廣くなつた。米國、チリ、カナダ等

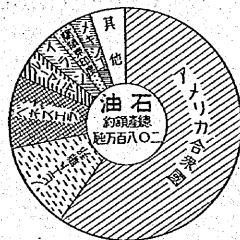
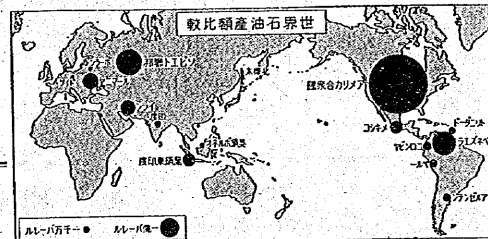


銅

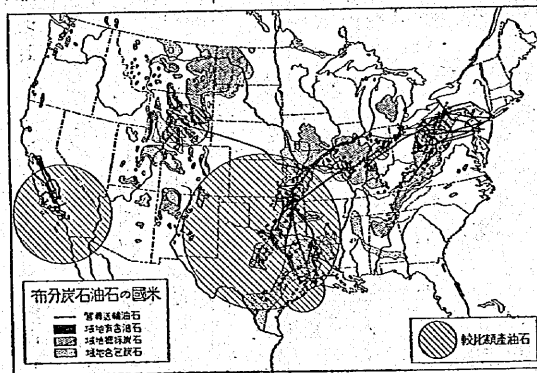


較比額産銅

争奪は、激甚を極めてゐる。米國は世界産額の約

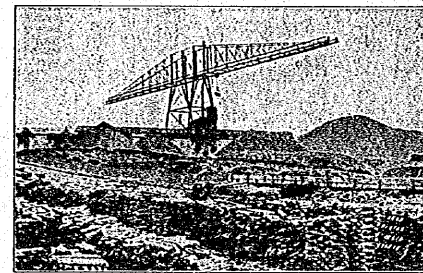
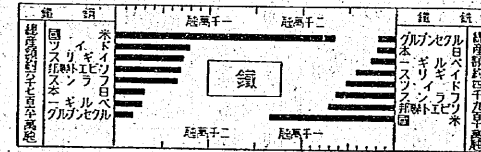
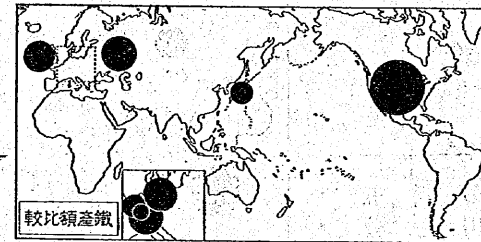


田油の近附スルゼンアスロ、景光の田油

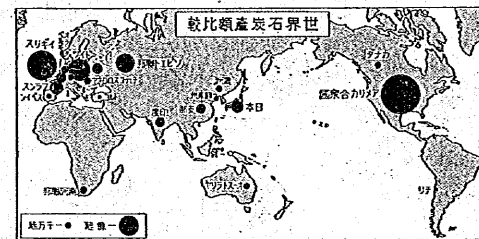


車汽船の原動力となつて、産業の盛衰を左右し、その大産地は、米英獨の三國で、この三國の産出額は世界の六割餘を占める。石油は揮發性燃料として、各種の交通機關及び工場に使用せられ、鐵と共に軍事上産業上極めて重要なものであるから、國際間の油田の油田を極めてゐる。米國は世界産額の約

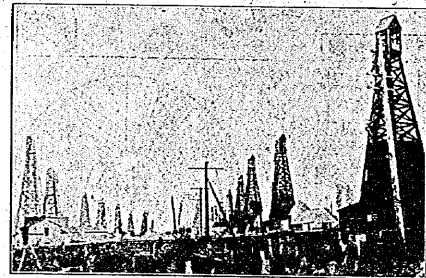
も密接な關係がある。現今製鐵の盛なのは、米國ドイツイギリスロシアフランスベルギー等で、米國の産鐵は、世界の約三割に當る。石炭は各種の工業を始め、汽



材鐵す出積らか州ヤニバルシンベ國米 積堆の材鐵



は、その大産地で、殊に米國の産額は、世界の約三割を占める。鐵は船車兵器建築等を始め、大小の器具機械製造の材料となるから産



北樺太の油田 根岸の石油は大きな邦船の積み荷

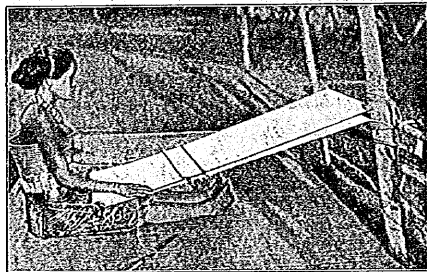
七割を産し、ロシア、ペネズエラ等が之に次ぎ、ルーマニア、イラン、蘭領東印度、メキシコ等も重要な産地である。

日本の鑛業 我が國は鑛産の種類に富むも、産額は概して少く、實用鑛物として稍豊富なのは、石炭のみである。石炭は全鑛産價額の五割を占め、一時相當の輸出もあつたが、工業發達の爲に今は輸入の方が多い。銅は世界屈指の産地で、之も主要輸出品の一であつたが、國內の需要が増加し、今は自給の程度である。鐵の産額は極めて乏しいが、原料鑛を他より輸入して、製鐵業が大いに發展し、石油は年々需要を増加するも、僅に越後秋田の兩油田を有するのみで、大部分を輸入に仰ぐ状態であるが、近年北樺太では、石油採掘權を得て、その試掘を行ひ、又滿洲では、油母頁岩による採油の工業を起して、その増産

に腐心してゐる。

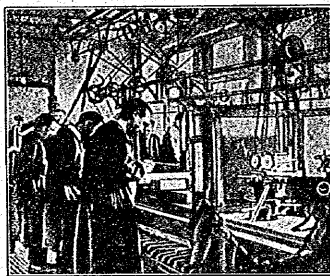
第六節 工業

工業の發達 工業の始めは、専ら手工であつたが、その發達につれて、機械を用ひるやうになる。動力も人力より家畜、更に蒸氣力電力を使用するに至り、工業界に一大革新を來し、大規模な機械力により、大量生産を行ふやうになつた。



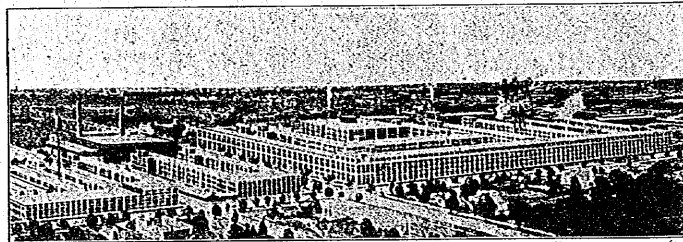
手工業 手と腰で織物をあつめるオネルの婦人

總て工業は、氣候、地形、原料等の自然條件と、交通、勞力、資本等の人文條件とによつて、發達するものであるから、氣候のよいこと、原料の多いこと、燃料動力に富むこと、勞力を得易いこと、交通の便利なこと、資本の潤澤なこと等は、工業の發達を促す要件であ

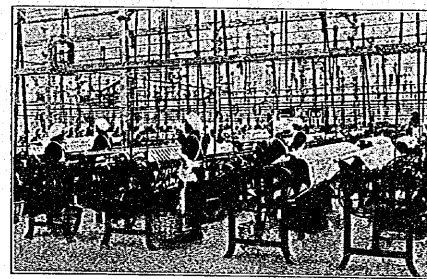


産特あるの聲名に的界世 場工計時のスイス

高い。毛織は英米獨佛等から多く産し、麻織は英國ベルギー、印度、麻等にも多い。
金屬工業 各種の鑛物、精鍊、鑄造等で、中でも製鐵は大規模の設備と、優秀の技術を要するから、人文の進んだ米獨英等の諸國に發達し、我が國でも、處々に壯大な工場が出來た。
機械器具工業 大は船舶、車輛、汽罐等から、小は時計その他の器具、機械に至るまで、種類が甚だ多い。イギリスは船舶機械等に於いて、アメリカ合衆國は自動車、汽車機械等に於いて、ドイツは科學的の機械に於いて、何れも世界に名高く、スイスは時計の製作で知られ、我が製品も次第に輸出を増して來



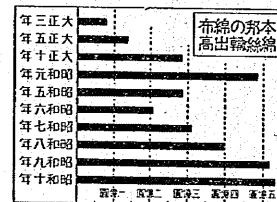
い多が場工大で心中大の業工はトイロトデ 社會造製ターモるあにトイロトデ國米



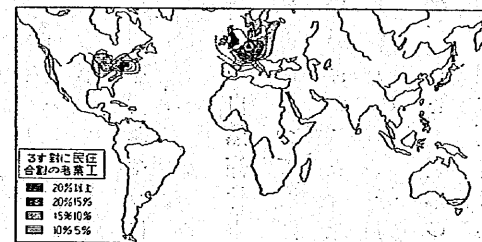
場業作る造を終で場工績紡るあに市治今 場工績紡

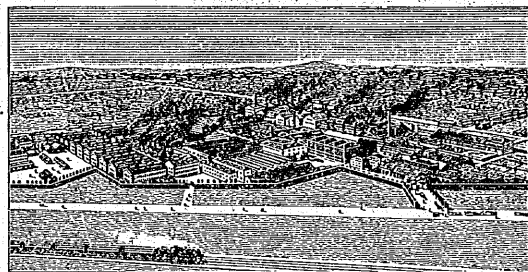
工業の分類はその標準により多少の差はあるが本書は商工省の分類に従った

る。現に工業の盛なのは、其等の條件を多く具備する西歐の諸國、アメリカ合衆國等で、近年我が日本も工業國として此等と比肩するに至つた。
工業の種類 工業は、その發達條件、殊に原料の相違により、種類は極めて多いが、大體左の數種に分けられる。

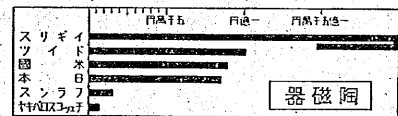


紡織工業 綿、麻、絹、毛等の纖維を原料とし、之を絲とし、更に織物とするもので、中でも綿絲、布の製造は、世界の各地に行はれ、産額が殊に多い。英米の二國は、世界綿業界の雙璧といはれてゐたが、最近日本の躍進は、此等と肩を比べんとしてゐる。その他絹織は、米國を第一とし、佛國は品質の優良で名





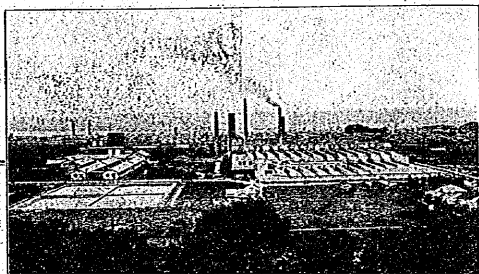
るす造製を器陶向出輸く多で大宏が模規 社會器陶本日屋古名器



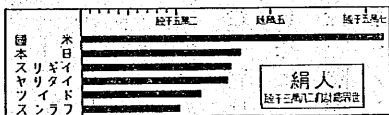
たが、精密機械には、尙輸入を仰がねばならぬものがある。

窯業 陶磁器硝子セメント等の如く、礫石を材料とし、加熱製作したもので、陶磁器はドイツ・チッコスロバキヤ等から多く産し硝子の産は米國が最も多く、ベルギーは板硝子、チェッコスロバキヤは硝子器の優良品を出すので名高く、セメントは米國が第一である。我が國は、此等の生産に於いて、何れも世界的の産地に數へられる。

化學工業 深奥の學理により、製作されるもので、人絹・染料・藥品・洋紙等は之に屬し、文化の最も進んだ地方に發達する。人絹は僅に數十年前の創業に屬するが、被服用として、需要が激増し、米日の兩國は世



望遠の社會ンヨイレ洋東 場工絲絹造人るあに近附湖琵琶



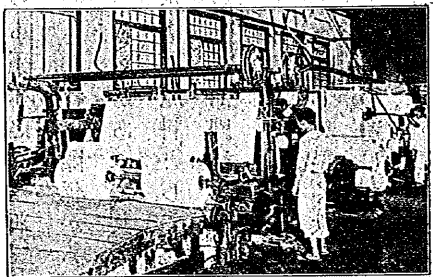
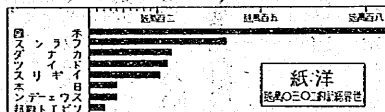
界の二大産地で、英佛獨伊等が之に次ぐ。染料はドイツから世界の約二分の一を出し、藥品と共に世界の王座を占め、製紙は森林の多い米國・カナダが最も盛である。我が國も近年長大足の進歩を示じ、此等の中には、先進國を凌ぐものも少くない。

製材業 林産の多い地

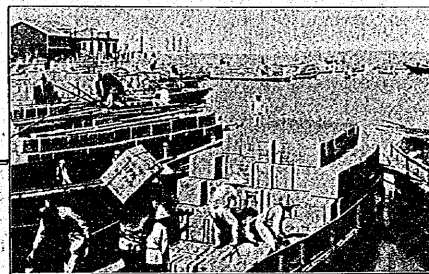
方に發達し、カナダ・米國・ロシア等

界有數の産地である。

食料品工業 製粉・製糖・製茶・醸造及び罐詰製造等を含み、小麥の産に富む米國・カナダ等には製粉が發達



場業作す直捲に用刷印轉輪を品製 部内の場工紙製



製茶の積出 清水港から茶の出船へ積む光景

し、甘蔗を多く出す印度キ、パ、リピンや、甜菜に富む米國ド
イツ等では製糖業が盛なやうに、原料と密接な關係がある。
我が國は、甘蔗茶果實魚類等の豊富な材料があつて、其等の
製品は輸出が頗る多く、近年輸入の小麥を原料として製粉
業も盛となつた。この他にも、瓦斯電氣又は印刷製本等工業
の種類は甚だ多い。

日本の工業 我が國民は、由來手工に長じ、又早く大陸文
化に接して、その技藝を傳へたが、大工業の發達したのは近
年のことで、先づ紡織業の進展に端を發し、各種の工業が續
續發達して、今日の盛大を見るに至つた。従つて我が工業の特色は、紡
績機業に最も著はれ、その生産品は、何れも主要の輸出品で、世界の市
場に活躍し、殊に人絹製品は、米國と並んで世界の二大産地となり、製
紙製粉製糖製陶機械製造等も、近年劃期的の進歩を示してゐる。動力
も、往時は主として石炭を用ひたが、風土に恵まれて、電力水力の利用

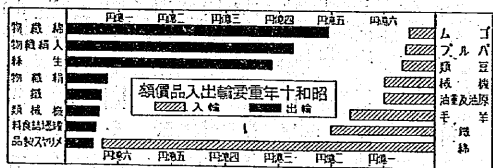
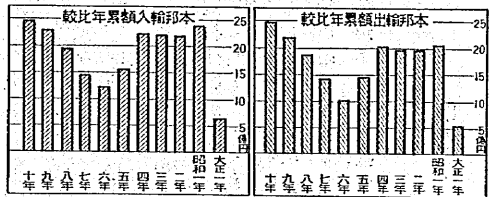
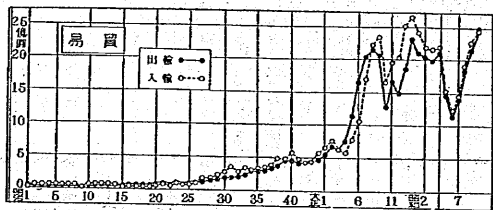
に便利な爲、優秀品を低廉に製作し得られるので、貿易の躍進と共に、
我が製品は世界の到る處に侵入し、列強の驚異を招いてゐる。

第七節 商業

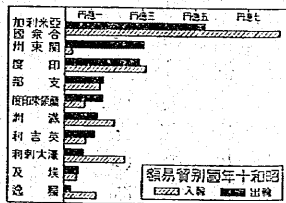


定期市の光景で白衣の群衆が路を埋めてゐる

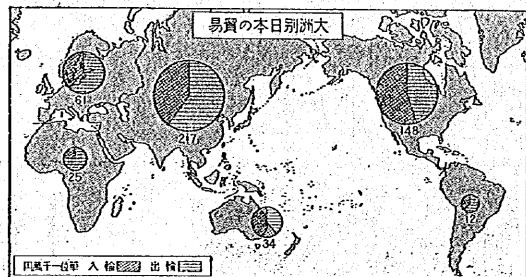
商業の發達 商業の最初は物々交換で、そ
の範圍は極めて狭いが、貨幣の使用により、商
品の移動が漸く便となつて、商業が市場の形
で行はれるやうになる。アジアの内部等には、
今もこの風が残つてゐる。交通が便利となる
と共に、地理的分業が益發達して、商品移動の
範圍は次第に擴がり、地方商業は國內商業と
なり、終に世界商業となつて、國際間の取引が
旺盛を極め、今は平和の戦争、即ち貿易によつ
て、國家の富強を争ふやうになつた。



日本の貿易 我が國の貿易は、逐年著しい發達を示し、日清戰役當時には僅に二億圓級に過ぎなかつたが、日露戰役後には八億圓級に上り、世界大戰の當時より飛躍的に急進して、四十二億圓を超えるに至つた。殊に近年、工業の發展と、海運界の活躍とによつて、販路が益、擴がり、昭和十一年には五十五億圓（輸入二十六億九千萬圓）に達せんとして、我



カナダ、イタリヤ、ソビエト聯邦等も之に次ぐ大貿易國である。オランダ、ベルギー等は、國は小さいが、歐洲の門戸に當り、通過貿易が盛に行はれる爲、人口に對する割合から見ると甚だ多い。



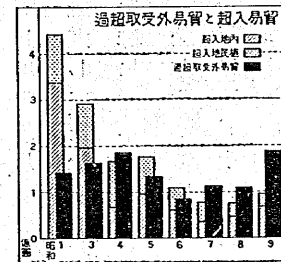
世界貿易の最も盛なのはヨーロッパで、世界總額の五割以上を占め、北アメリカ（約二割）、アジア（約一割五分）が之に次ぐ。又國別に見ると、イギリスは天與の好位置を占める上に、工業の發達、廣大な植民地の需給、多大な商船の活躍等が相待つて、貿易が繁盛を極め、米國は豊富な資源と、工業の大發展とにより、近年著しく商況が盛となり、この兩國は貿易上で東西の覇を握つてゐる。ドイツは大戰後、總ての産業が衰へ、一時非常な苦境に陥つたが、今は殆ど舊時の盛況を恢復し、フランス



と球半水と球半陸を地球（地球）英は分都大の地陸とるけ分にる集に内球半たしと心中を國

が貿易史上の新記録を示し、大戦前には、世界の貿易國として第十四位にあつたが、今は堂々第五位を占め、歐米の先進國を凌駕して、新市場を世界の各地に開拓してゐる。

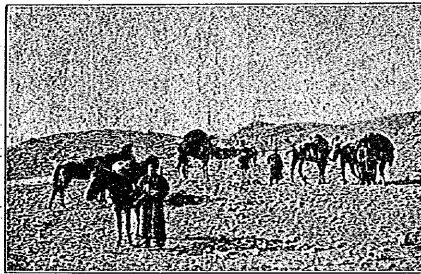
貿易外收支 國際間の收支は、貿易の外に、外債の利子、對外事業の損益、運賃、保険料等の如き、種々の受渡勘定がある。之を貿易外收支といふ。新開國や農業國の貿易は、概ね輸出超過であるが、工業國では輸入超過の場合が多い。我が國でも、貿易は輸入超過の年が多いが大抵貿易外收支で相補ふことが出来る。



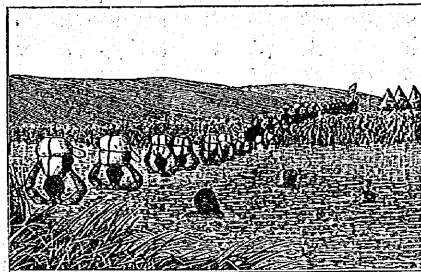
第七章 交通

人類が互に往來し、貨物を輸送し、通信を交換する等を交通といひ、その發達と人文の進歩とは、密接な關係がある。交通路には、河海の如き自然のものと、道路、鐵道の如き人工的のものとあるが、要するに陸運、水運、空運に分けられる。

第一節 陸 運

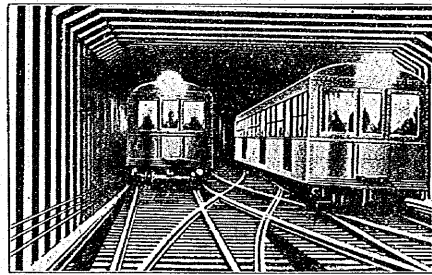


路分路圖 商隊が中漠沙を地泉から地泉へ進み行く



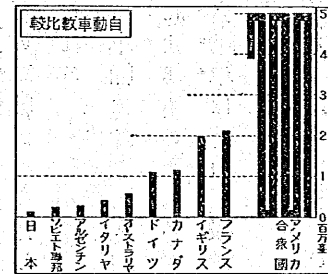
夫擔のカリフア 荷物を頭に上載せ河を渉てみる

道路と運輸機關 陸上の交通には、道路、鐵道等がある。道路の最初は、便宜上の踏分路に過ぎないが、文化が進み、道路の必要が加はるに従ひ、加工路が發達するやうになる。道路に於ける運輸機關には、動物等もあるが、運搬能率の上から、今は各種の車輛が多く用ひられる。



東京地下鉄の交通頻繁な都会に多く設けられる

地勢の制限を受けることが少いから、短距離の交通機関として、その利用が甚だ廣い。自動車の最も發達せるは米國で、世界總數の七割を持つといはれ、我が國も近年著しくその數を増したが、尙約十五萬臺に過ぎない。

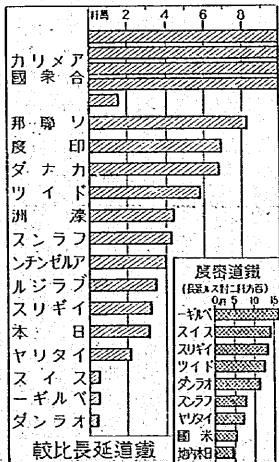
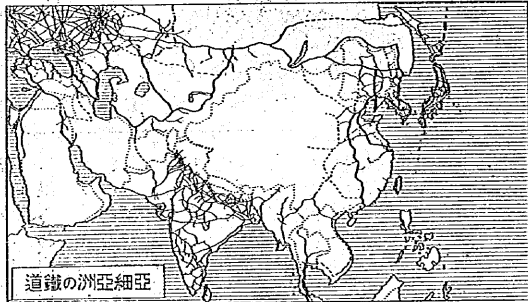


鐵道 鐵道は汽車電車等を通ずるもので、現在の陸上交通機關中、最も進歩したものである。殊に汽車は、その牽引力が強大で、國際交通の機關としても重要なものであるが、電車よりも更に地勢の制限を受けることが多いから、山岳の多い地方では、發達が困難である。

普通の鐵道のやうに、専用路がなく、道路上に敷設したのを軌道といひ、その多くは市内電車である。その他、索道、鐵道、架空鐵道、地下鐵道等がある。此等は地形その他の關係に適

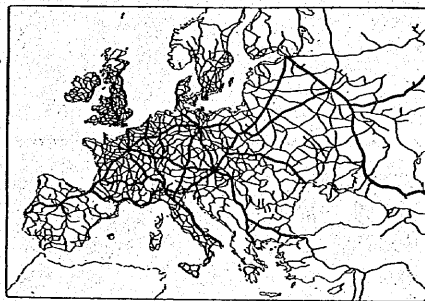
應させて造られたもので、概ね短距離である。

鐵道は經濟上軍事上に密接な



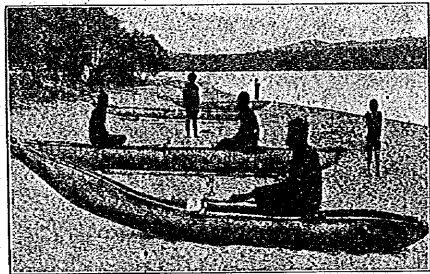
關係があり、その發達程度は、文化を推定する一標準ともなる。世界の諸國中、延長の最も大なのは米國で四十二萬軒に餘り、之に次ぐソ聯邦も八萬軒に餘るが、何れも面積が廣いので密度は低い。之に反し、ベルギーは面積が狭い爲に、延長は大でないが、密度は世界第一である。我が國も延長約三萬軒に達し、交通は極めて便利となつた。

各大洲に於ける鐵道を見ると、アジヤ洲で鐵道網の



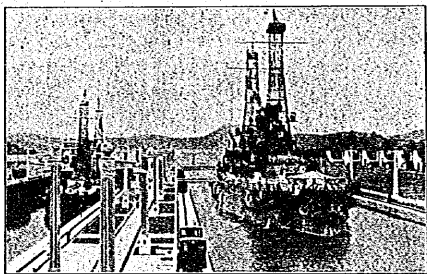
密なのは日本と印度とで、その他稍發達せるのは東部南部の海岸地方に限られ、内部は沙漠荒地が廣く、極めて疎であるが、滿洲國シベリヤ西部アジア等には國際交通上に重要な線路がある。ヨーロッパは面積が狭いから、延長に於いて北アメリカに劣るが、密度の大なのが特色で、殊に西部の商業地方は、鐵道網が極めて錯雜してゐる。パリ・ベルリン・ロンドン等はその大中心である。アフリカ洲は沙漠密林が廣く、海岸の處々に孤立の短線がある外、未だ鐵道の布設を見ない處が多いが、東部を走る縦貫線は、大部分落成した。北アメリカ洲は世界全線の四割餘を占め、米國の東半部は極めて密である。西部は山勝ちであるが、數條の横斷鐵道が平行し、本大陸の特長をなしてゐる。南アメリカ洲は、西部にアンデス山脈が連り、東部に大密林があつて、鐵道の發達を妨げ、海岸地方に地方的の短線を見るに過ぎないが、南部には僅に一條のアンデス横斷線がある。滿洲では東南部に稍發達し、最も長大なのは、南部を走る横斷線である。

第二節 水 運

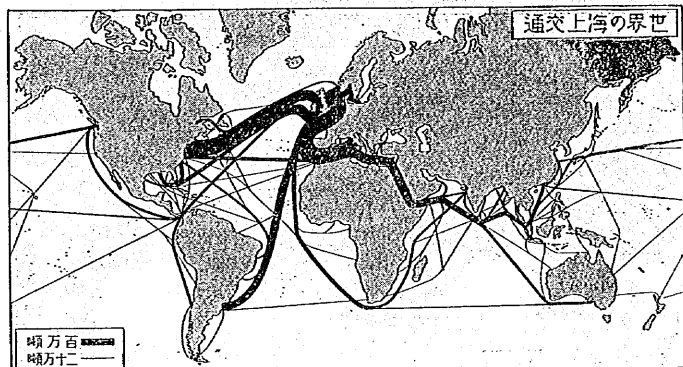


舟木丸の人士洋南(註) 舟木丸の人士洋南(註)

利となり、産業も益、發展を見るに至つた。運河には河・湖・海洋等を連ねるものと、急流・瀑布等を避ける爲に設けたものとある。前者は主として、距離を短縮して交通の便を計るもので、スエズ・パナマ等は之に屬し、後者は水



るす下上米六二は船りあが門間に西東 河運マナバ(註)



きさ八萬噸に餘る巨船がある。帆船は速力が遅く、發着時も正確でない爲、汽船に驅逐されたが、運賃が低廉な爲に、今でも尙相當に用ひられる。

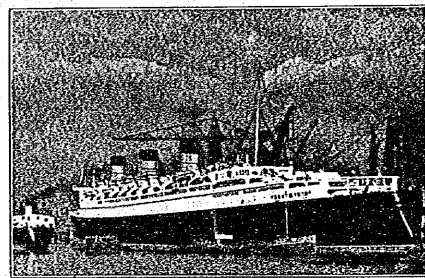
世界の商船噸數は、約七千萬噸に達し、英國はその中の約三分の一を有して、海運界の王座を占め、米國は約五分の一を有して之に次ぎ、日本ノルウェー・ドイツ等が更に之に次ぐ。

世界船舶の二分の一、特に優秀船の多くは、北大西洋に浮んで、旅客輸送の外、北米產の食糧品原料品と、歐洲產の製造品との交換に當り、船舶の往復が最も繁く、之に次ぐは東亞諸國及び濠洲と、歐洲とを連ねる印度洋航路で、スエズ運河の開通が、その發達を促した。近年東

	船名	噸位	航路	出帆日	出帆時	入港日	入港時
スリギイ	SUGUII	1000	神戶・大阪・名古屋	1967-05-10	08:00	1967-05-11	06:00
西条合利ア	SAIGAI	1000	神戶・大阪・名古屋	1967-05-12	08:00	1967-05-13	06:00
本エウルド	MONTWULD	1000	神戶・大阪・名古屋	1967-05-14	08:00	1967-05-15	06:00
イツインラ	ITZINRA	1000	神戶・大阪・名古屋	1967-05-16	08:00	1967-05-17	06:00
スヤンデウス	SUYANDEUS	1000	神戶・大阪・名古屋	1967-05-18	08:00	1967-05-19	06:00
タデーウス	TADAEUS	1000	神戶・大阪・名古屋	1967-05-20	08:00	1967-05-21	06:00

船 商

東映の六六六製糖株式會社

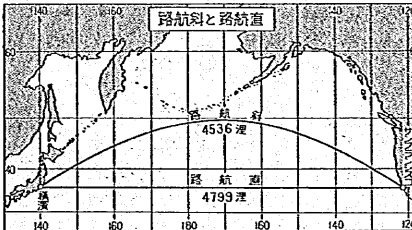


噸千三萬八で號一リメンイクの國英 船大最の代現解

之に屬する。

交通は自由のやうであるが、帆船は主と
を利用するから、定風の關係により、時に
することがある。之に反し、汽船は風向、海
流等に支配されることが割合に少いから、
各港間の最短距離を航行するやうに
勉める。二地點間の最短距離を直航路又は
大圏航路といひ、海圖の上で二地點を
結んだ直線を斜航路といふ。短距離では、普通
に斜航路を探るが、大洋航行の場合には、直航路による。

船舶 舟も最初は、人力によつて動かしてゐたが、稍進んで、
風力による帆船が使用せられ、蒸氣機關の發明によつて、
巨大な快速船が造られるやうになり、今では速力三十節、大

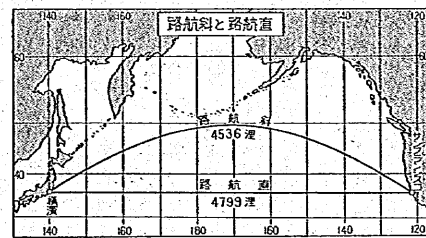


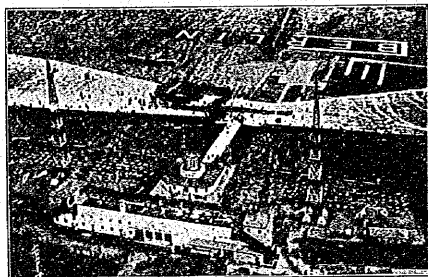
路航斜と路航直

4536 哩

直航路

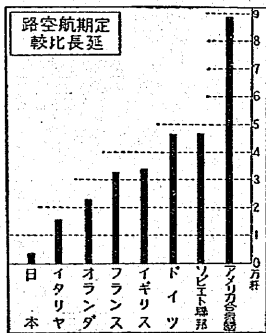
4799 哩





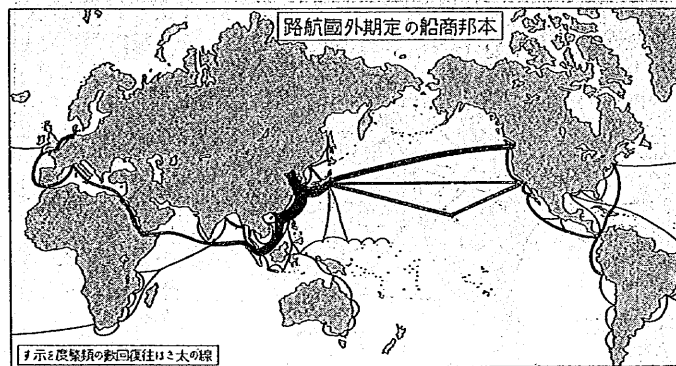
世界航港の發展 航空港の設備が完備する

るに至つた。飛行機が著しく進歩したのは、世界大戦の結果で、その経験から、國防上の重要性を認められ、各國共に空軍の擴張に心を注ぎ、民間機も之につれて著しく發達し、今は軍事上は勿論、運輸通信上の重要な機關となつた。



航空路は陸路水路と異なり、水平にも垂直にも進行し得られ、且兩地點の最短距離を選ぶことが出来るので、極めて便利であるが、天候と密接な關係があり、不時の障害に遭遇する場合もあるから、航空無線局、航空燈臺、中間着陸場等を設けて置く必要がある。

航路に海港があり、汽車に停車場がある如く、航空路には航空港がある。航空港は飛行機の發着場で、飛行場格納庫修理工場等の附屬してゐるのは普通であるが、國際的大航



日本邦商の定期國外航路

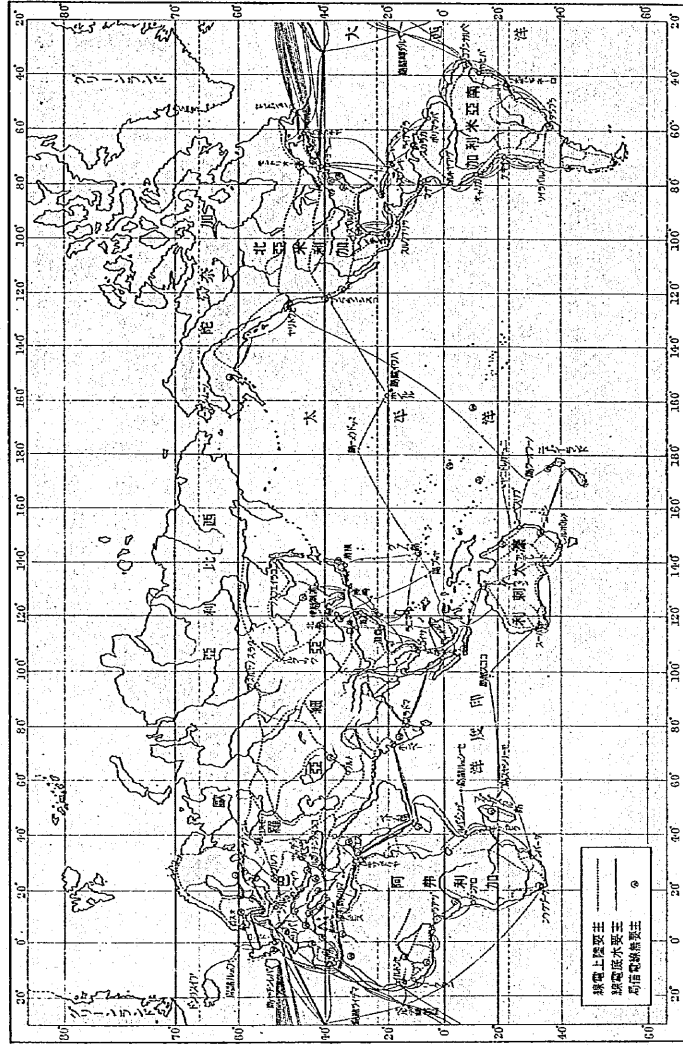
亞諸國と、米國とを連ねる北太平洋航路も、日本支那に於ける商業の發展と、パナマ運河の開通とで著しく發達し、日本はこの航路の中樞を占める。

日本の海運 我が國が、世界の海運界に参加したのは、比較的近年のことであるが、地理的位置の良好なと、海國的精神の發露とにより、長大足の進歩を示すに至つた。我が船舶の近海沿海の航路に就くものは、僅に全數の五分の一で、大多數は遠洋航路に従事して、世界の各地に活躍し、その運賃は貿易の入超を補ふ重大な財源となつてゐる。

第三節 空 運

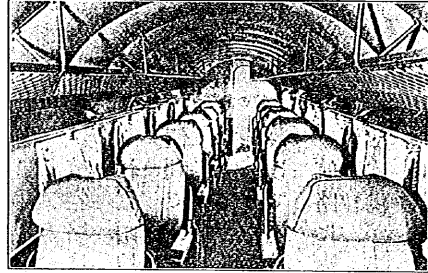
空路と空輸機關 航空機の稍古いのは、輕氣球であるが、飛行船、飛行機の出現によつて、運輸の實用化を見

主 要 電 信 機 關

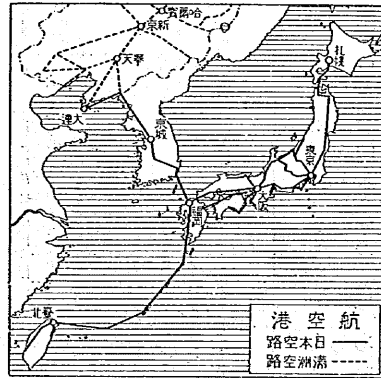


通 信

期飛行が行はれ、滿洲國の空路とも連絡して、將來歐亞交通の幹線たらんと
してある。



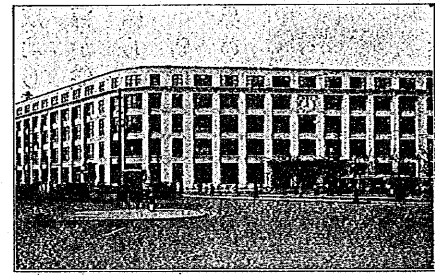
日本飛行機の客機内客席を示すもの



空港には、税關やホテル等も出來てゐる。
我が航空 我が航空事業の發達は、極めて
最近のことである。旅客用として開始したのは、昭和
四年である。従つて歐米諸國に比し、尙遜色
を免れないが、北は北海道から、南は臺灣に達
する縦貫線があり、日本海岸四國等に至る支
線も多く、又朝鮮
關東州を經
て、天津へも定

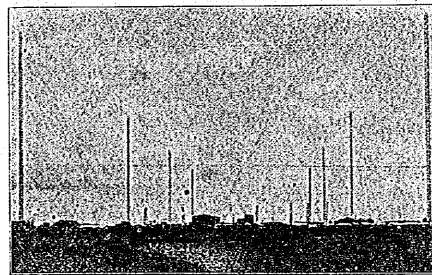
通信機關には、郵便・電信・電話等がある。此等は經濟上に重要なのみでなく、政治上軍事上及び社交上、一日も缺くことが出来ないから、最新の知識を應用し、通信の迅速と確實とを期してゐる。

郵便 我が國では、明治四年に始めて東京・京都・大阪間に郵便制度が實施せられ、明治十年に萬國聯合郵便條約に加盟したが、今では、その普及も制度の完備も、列強に比して毫も遜色はない。



東京中央郵便局 日々數百萬の郵便物が處理される

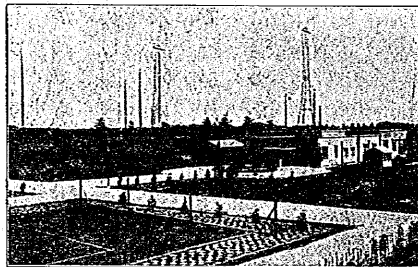
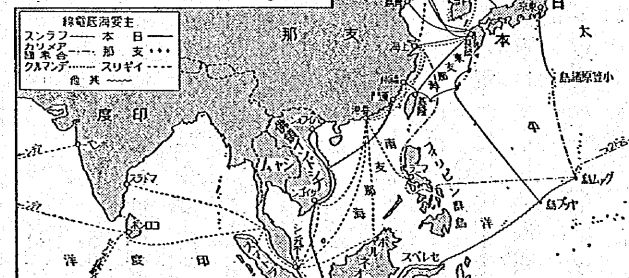
電信 我が國は、明治二年東京・横濱間に使用したのを始めとし、明治十二年に萬國電信條約に加盟したが、今は殆ど國內に電信の通じない處はない有様である。電線には陸上線及び海底線がある。海底電線は一八五一年、英佛間に通じたのを始めとし、一八六六年には、大西洋横斷線が布設されて、歐米間の通信に



望遠の所信送線無るあに美佐依縣知愛 局信電線無

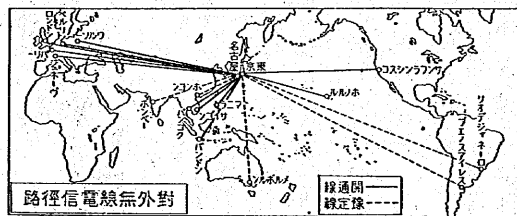
成功し、一九〇六年には、太平洋横断線が完成してアメリカアジアを連結し、今は各大陸間は勿論大洋中の小島にも、多く海底電線を通じて、世界の通信は迅速に行はれるやうになつた。我が國でも、大陸及び南洋等に通ずる電線を敷設し、小笠原島線は、米國の太平洋横断線と連つてゐる。

無線電信は、一九〇一年マルコニ式無線電信が、英國に設置されたのを始め、急速に擴つて、今は都市、港灣、島嶼は勿論、艦船、航空機、列車等の移動物にまで設置せられ、大電力を使用せば、地球上の到る處と通信

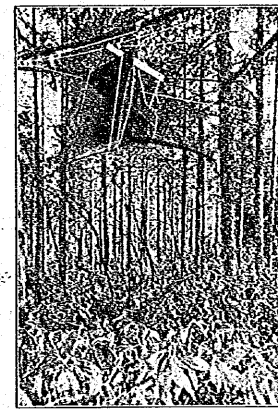


る來出が話と米歐らがな坐 所信受話電際國の室小

電話 一八七六年、始めて世に紹介せられ、我が國では明治十年東京横濱に通じたのを始とし、今は全國の都市に普及してゐる。無線電話 最近の發達に屬し、殊に大陸間の通話は、昭和二年にロンドン・ニューヨーク間に行はれたのが始であるが、今は各大陸間に行はれる。我が國でも國際通話が實行せられ、滿洲國、フリピンより、遠く歐洲、北米、南米等の諸國とも、自由に通話が出来るやうになつた。



ラヂオ 廣く世界的に擴まり、我が國でも、全國の津々浦々にまで普及し、國內の演説や音楽等は勿論歐米諸國の放送までも、坐ながらにして聽かれ、萬國比隣の語を實現するに至つた。



送信機中の聲啼鳥小の山隠戸州信國

第八章 政治

第一節 國家の組織

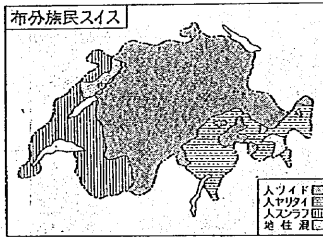
國家の要素 人は團體生活を營み、社會を形成してゐる。社會の幼稚時代には、定つた居所もなく、治者被治者の別もないが、人口が次第に増し、單に天産のみで生活することが出来なくなると、一處に定住して仕事をなし、首長が之を指揮統治するやうになる、之が國家的結合の端緒である。要するに國家は、一定の地に住する人民が、共同の目

的を達する爲に造つた社會で、主權・國民・國土の三要素から成る。

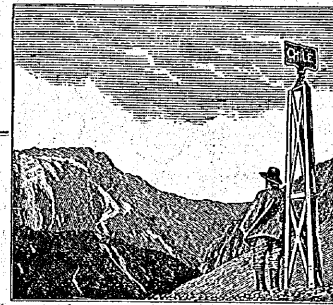
國家の種類 國家は主權の所在によつて、國體を君主國・民主國・共和國に分け、又主權運用の形式によつて、政體を立憲國と專制國とに分ける。此等はその國の歴史國情等によつて定まるものであるが、文明の進歩に伴ひ、各國共に立憲政體を採用して、廣く民意を採る傾向が著しく、專制政體は殆どその跡を絶つやうになつた。又自治權を有する數國又は數州が集つて、國家を組織した場合を聯邦又は合衆國といふ。

國家と民族 國家がハンガリー・イタリア等の如く、單一の民族から成る場合を單族國といひ、統合上に利便が多い之と反し、スイス・ベルギー等の如く、二種以上の民族が合同して成れる場合を複族國といひ、民族間の融合に不便なことがある。

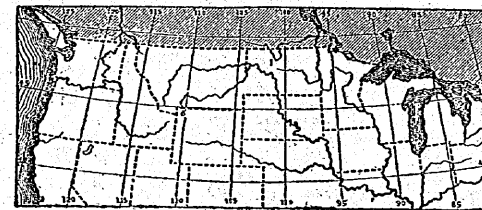
第二節 國家の版圖



國境 國家の領域を限定する界線を國境といふ。國境には山脈、河、湖、海岸線等の自然的境界によるのが普通であるが、適当な地物のない場合には、人爲的に境界を定めることがある。人爲的境界には、經緯線によるもの、塹溝、土壘等を築くもの、林空を設けるもの、標柱を建てるもの等がある。鮮滿の國境は、自然的境界で、樺太に於ける國境は、人爲的境界の例である。



ふ。國境には山脈、河、湖、海岸線等の自然的境界によるのが普通であるが、適当な地物のない場合には、人爲的に境界を定めることがある。人爲的境界には、經緯線によるもの、塹溝、土壘等を築くもの、林空を設けるもの、標柱を建てるもの等がある。鮮滿の國境は、自然的境界で、樺太に於ける國境は、人爲的境界の例である。



經緯線によに境界 經緯線によに定められたる國境の州界

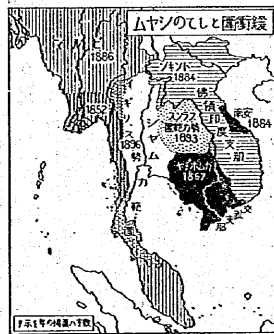


例の國境 樺太に於ける日露國境 樺太に於ける日露國境 樺太に於ける日露國境

世界大戰の後、同一民族によつて、國家を形成する風潮を生じ、民族國家の誕生を見るに至つたが、

この國境は一層人爲的のもので、略、民族分布線と一致する。

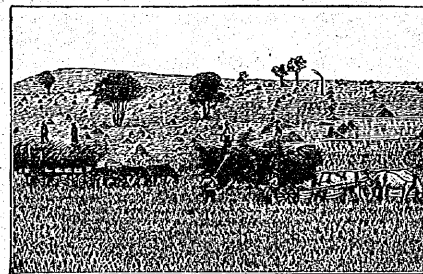
國境は國家の摩擦面と呼ばれ、國際紛争を起し易い處であるから、兩國の間に中立地帯を設定し、或は緩衝國を設けることがある。



海に面する國家では、その産業を保護し、安寧を保つ必要から、一定の海面をその國の領有とし、之を領海といふ。通常干潮時の海岸から、三哩の距離をその範圍としてゐるが、實際には例外が多い。領海は領土の延長であるから、我が國の如き海國は、海上の版圖が甚だ廣い。又近年航空術の發達につれ、領土の上空一切を領空とし、その國の許可がなくては、上空の航行を許されない。

植民地 國家の勢力が盛になると、本國以外に土地を求めて、此處に人民を移し、又は産業的に開發させる、この本國以外の土地を植民

交通植民地
グアム
移住植民地
カナダ
投資植民地
印度
商業植民地
香港



於にヤリラトスーオは② 地民植資投と地民植住移③
景光るみてし収採をナナバで度印西は① 方地業農るけ

地といふ。植民地には、炭水の貯藏、無線電信局の設置、海底電線の中継等を目的とする交通植民地もあるが、最も主要なのは本國の移民を收容する移住植民地、資本を下して生産物を得るを目的とする投資植民地及び商業の要地に當る商業植民地である。

植民地には、特殊の法律を設けて、治めるのが常である。之を類別すると、次の如く分れる。

自治領 カナダ、オーストラリア、聯邦南アフリカ、聯邦等の如く、文化が著しく發達して、自治權を有し、政治上本國と對等の關係にあるもの。

直轄地 住民の文化が、未だ自治を許すに至らない爲、本國政府で直轄し、全く政權を有しないもの。

保護地 主權の一部又は全部を、宗主國に委任せるもので、アンナン等の如きがそれである。

租借地 條約上一定の期間を限り、他國の

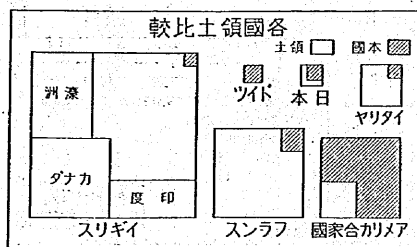
領土の一部に統治權を行ふもので、事實上版圖と選ぶ所はない。我が國の關東州に於ける如きがそれである。

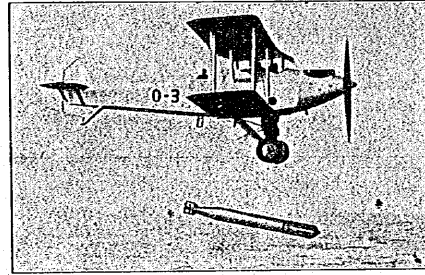
勢力範圍 未だ確實に占領はしてないが、一定地域を選んで、その利權を確定し、相互の衝突を避ける場合の區域をいふ。

委任統治 ドイツ、トルコ等の舊領土で、世界大戰の結果、本國から分離した土地を、國際聯盟管理の下に、その統治を他の國家に委任したものである。

第三節 主要國の國勢

領域 世界の國家は、領域の大小が著しく違つてゐる。面積の最も廣いのはソビエト聯邦、アメリカ合衆國、支那及びブラジル等で、何れも我が國の十倍に餘る。植民地の廣いのは英佛の二國で、イタリヤ、ベルギー、オランダ等が之に次ぐ。領域の大小は、その國の勢力と密接の關係はあるが、富強は必ずしもそれに比例するとは限らない。支那は國內





スリギイ海軍の雷撃機、魚雷を発射する瞬間の光景

の統一が缺け、ブラジルは未開の部分が多く、共に國勢は未だ盛とはいはれない。

人口 國民の多少も、亦國家の勢力と密接な關係はあるが、數よりも質特に國民的團結力の如何が大切である。世界の諸國中、人口の多いのは支那、ソビエト聯邦、アメリカ合衆國等で、何れも一億を

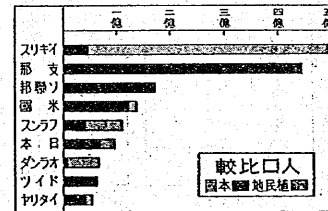
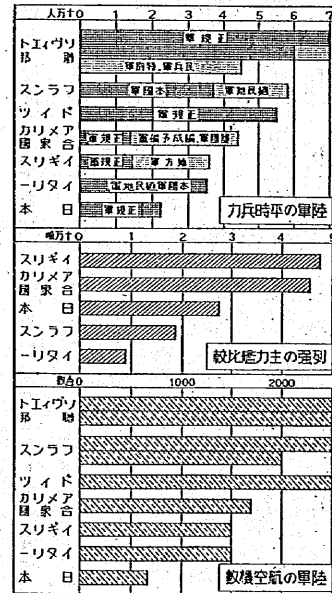
超える。我が國は、面積は廣くないが、人口は世界の第五位を占め、民族の種別が割合に單純で、團結力の強固なことは、世界に殆ど類を見ない。

軍備 列國は互に親交平和を希望してゐるが、國家の利害が衝突した場合には、最後の手段として、戦争も避け難い事情が起つて来る。軍備は陸軍、海軍、空軍に分れ、各國情によつて、主力とする處は同じでないが、近年何れも空軍の充實に力を注ぎ、又兵器の改良發明に全力を傾け、軍備を機械化

するやうになつた。

二十世紀の初は、各國共に軍備の充實に腐心し、建艦競争が激しくなり、軍事費の負擔に悩まされたのみならず、終に世界大戰の慘事を見るに至つたので、軍備の縮小が高唱せられ、列強は協議して、海軍の軍備を制限し、又陸軍、空軍の整理縮小も唱へられ、一部は已に實施せられたが、結局自國の利益を擁護する手段に過ぎないから、全般的の實現は甚だ困難である。

我が國は、世界に有數な陸海軍を具へ、更に近年、空軍も著しく充實したが、東亞問題は常に紛糾を續け、動もすればその間隙を窺ふものすらある今日、自國の利益を擁護する爲にも、國家の體面を保つ爲に

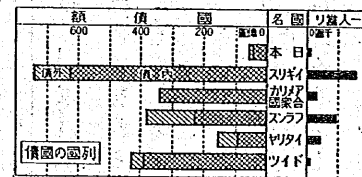


も、之に必要な軍備の充實を計らねばならぬ。

財政 國家公共の經濟を財政といふ。國家の歳出は、國力の伸張と共に増加するのは當然であるが、如何なる部門に費途が多いかは、國情によつて異なる。歳出に應ずる歳入は、租税、國營事業の益金等を以て充てるが、一時に多大の費用を要する場合には、國債を起して支辨することがある。我が國は、近年各種の方面に大發展を遂げたから、國費は年と共に膨大し、國債も頗る巨額に上つてゐる。國民は勵精勤勉、よくこの負擔に堪へる力を養はねばならない。

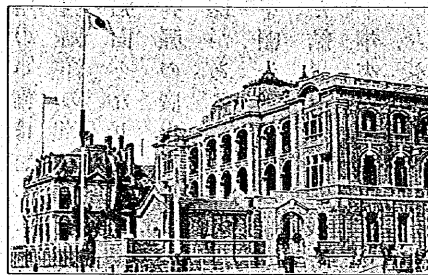
第四節 國際關係

外交 文明國の間には、概ね條約を結んで、外交官を交換する。外交官には、大使と公使とがある。何れも本國を代表して外國に駐割し、國



際關係に注意して、彼我の和親を計り、利益の保護増進に勉める。又通商關係の深い處には、領事・總領事・領事等を派遣して、在留國民を保護し、通商上の便宜を計つてゐる。斯くして各國は、互に親善和協に意を用ひてゐるが、要するに、自國の利益擁護たるを免れないから、個人的道義とは大いに異なる所がある。

國際聯盟 世界大戰後、國際間の禍根を除き、平和を確保せんが爲に生れたもので、大小五十餘の邦國が之に加盟し、その本部をスイスに置く。我が國も聯盟創立の當時から、有力な一員で、重要な地位を占めてゐたが、東洋平和に對する意見の相違から、脱退の餘儀なきに至り、ドイツも最近に脱退を宣言する等、大いに聯盟の威力を減ずるに至つた。

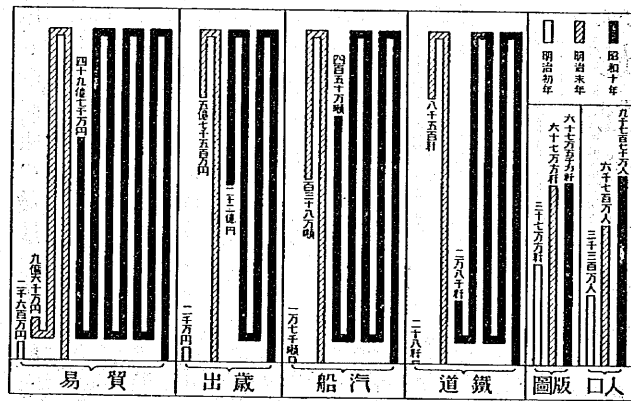


館事領總の國米はぶ並に隣左 館事領總國帝の海上原圖

第九章 世界に於ける我が國の地位

日本の國勢 我が國は、アジヤ洲の東端に位する帝國で、位置氣候、天産等の地理的條件に恵まれ、國民は忠君愛國の至情に燃え、舉國一致して皇室を尊び、君民の情は父子の如くである。人口は已に一億に達せんとし、貿易額は五十五億圓に及び、陸海空の軍備は整つて、將士の精銳は世界に聞え、且我が固有の文化に、東西兩洋の粹を加へて、獨特の日本文化を醸成し、國力は伸張し、國勢は強固となり、今は新進の大強國として、仰望されるに至つたが、版圖は列強の廣大に比すべくもなく、富力の程度も、徑庭なしとはいひ難い憾がある。

日本の躍進 世界に於ける列強發達の跡を顧ると、歐米の諸國が、現在の盛大を來したのは、多大の歲月を重ねた結果であるが、我が國の著しく進歩發展したのは、明治以後、僅々六十年來のことである。試みに明治の初年と末年とを比べ、更に昭和の今日とを比較すると、進歩



の速なことは、世界にその比類がない。殊に最近の顯著な大躍進は、世界の驚異を招き、或は政治上から國力の伸張を妨げんとし、或は軍備上から勢力の進展を抑へんとし、或は經濟上から商品品の進出を阻まんとするものもある。我が國が國際聯盟を脱退することになつたのも、華府條約の廢棄を通告することになつたのも、畢竟それが爲で、近年非常時の叫ばれる所以も、亦此處に存するのである。

國民の覺悟 我等は斯る四圍の情勢を洞察し、自重自奮、徒らに外來の思想に醉ふことなく、浮華輕佻に流るゝことなく、光輝ある國史の精華

に鑑み、質實剛健の美風を養ひ、恐れず屈せず、進んで帝國の進運に善處し、益、將來の發展に力を盡さねばならぬ。

女子最近地理概說 終

恐れず屈せず、進んで帝國の進運に善
ねばならぬ。

昭和十二年十月十四日 印刷
昭和十二年十月二十日 發行

新編女校記

米 米 米 米 米 米 米 米
 米 復 子 女 不 米 米 米
 米 製 說 概 理 地 近 許 米
 米 錢 八 拾 七 價 定 米 米 米
 米 米 米 米 米 米 米 米

著 作 者

三省堂編輯所

代表者 龜井寅雄

發行者

東京市神田區神保町一丁目一番地
株式會社 三省堂

代表者 龜井寅雄

印刷者

東京市蒲田區仲六郷一丁目五番地
株式會社
三省堂蒲田工場
代表者 龜井豐治

代表者 龜井 豊治

發行所

（東京市神田區神保町一ノ一）
振替口座東京三一五五五
（大阪市西區阿波座下通二ノ六）
振替口座大阪八一三〇〇

株式會社 三省堂
株式會社 三省堂

SSD